

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部設置								
フリガナ設置者	ガクワイジーン カセイグイン 学校法人 関西学院								
フリガナ大学の名称	カセイグインガク 関西学院大学 (Kwansei Gakuin University)								
大学本部の位置	兵庫県西宮市上ケ原一番町1番155号								
大学の目的	<p>関西学院大学はその理念とするキリスト教主義に基づき、教育基本法および学校教育法の規定するところに従い、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶することを目的とする。</p> <p>本学初代学長（第4代院長）C. J. L. ベーツが提唱したスクールモットー                      “Mastery for Service（奉仕のための純達）”は、関西学院の建学の精神を簡潔に表現するものであり、「社会貢献のためにこそ実力を身につけよ」と解されている。本学は、知性を、そして自らが持つすべての豊かさを、隣人のために用いることを強調するとともに、創立当初から培われてきた国際性と社会貢献への使命感を身につけた世界市民の育成を重視する。</p> <p>本学は、教育においては、全人的教養および専門的知識・技能を修得させるとともに、広く創造力、課題発見能力、課題解決能力そして実行力を強化しつつ、応用研究および先端的研究を発展充実させるとともに、研究成果を社会に還元して、社会貢献することをめざす。</p>								
新設学部等の目的	<p>工学的知識と技術をベースにして、魅力的で持続可能な建築や都市空間をつくるための計画・デザイン能力及びそれらを運営・管理するためのマネジメント能力を修得させる。また単体としての建築、その集合体としての都市空間、そしてこれらを取り巻く地域社会や自然環境を、連続的・一体的なものとして捉え、相互の関係にまで踏み込んだ課題設定や計画提案、維持管理手法の検討等を行える能力の修得をめざす。さらに、修得した能力を地域社会や国際社会で発揮できるための語学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を磨く。以上の能力を有する人材を育成することによって、グローバルな視野で建築と都市の未来を創造し、持続可能で秩序ある生活空間の実現に貢献する。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	建築学部 [School of Architecture]							兵庫県三田市 学園2丁目1番地	
	建築学科 [Department of Architecture]	4	132	-	528	学士（工学） [Bachelor of Architecture]	令和3年4月 第1年次		
	計		132	-	528				

同一設置者内における 変更状況（定員の移行, 名称の変更等）	理学部	数理学科 ( 54) (令和2年4月届出予定) 物理・宇宙学科 ( 60) (令和2年4月届出予定) 化学科 ( 66) (令和2年4月届出予定)								
	工学部	物質工学課程 ( 55) (令和2年4月届出予定) 電気電子応用工学課程 ( 60) (令和2年4月届出予定) 情報工学課程 ( 90) (令和2年4月届出予定) 知能・機械工学課程 ( 60) (令和2年4月届出予定)								
	生命環境学部	生物科学科 ( 61) (令和2年4月届出予定) 生命医科学科 ( 84) (令和2年4月届出予定) 環境応用化学科 ( 83) (令和2年4月届出予定)								
	総合政策学部	総合政策学科 [定員減] (△95) (令和3年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△20) (令和3年4月) メディア情報学科 [定員減] (△25) (令和3年4月) 都市政策学科 [定員増] ( 30) (令和3年4月) 国際政策学科 [定員減] (△5) (令和3年4月) (3年次編入学定員) [定員減] (△10) (令和3年4月)								
	人間福祉学部	社会福祉学科[定員減] (△20) (令和3年4月) 社会起業学科[定員増] ( 20) (令和3年4月)								
	理工学部（廃止）	数理学科 (△75) 物理学科 (△75) 先進エネルギーナノ工学科 (△80) 化学科 (△75) 環境・応用化学科 (△80) 生命科学科 (△80) 生命医化学科 (△80) 情報科学科 (△75) 人間システム工学科 (△80) ※令和3年4月学生募集停止								
	教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計					
	建築学部 建築学科	65 科目	57 科目	2 科目	124 科目	128 単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
			人	人	人	人	人	人	人	
	新設分	理学部 数理学科	10 (10)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	45 (39)	
		物理・宇宙学科	7 (9)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (12)	0 (0)	74 (51)	
		化学科	5 (6)	2 (2)	1 (1)	4 (4)	12 (13)	0 (0)	58 (43)	
		工学部 物質工学課程	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
		電気電子応用工学課程	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
		情報工学課程	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
		知能・機械工学課程	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	
		工学部 計	29 (32)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	36 (39)	1 (2)	96 (71)	
		生命環境学部 生物科学科	4 (4)	4 (4)	1 (1)	5 (5)	14 (14)	0 (1)	86 (61)	
		生命医科学科	7 (7)	2 (2)	3 (3)	5 (5)	17 (17)	1 (1)	84 (73)	
		環境応用化学科	8 (8)	0 (0)	2 (2)	4 (4)	14 (14)	0 (0)	53 (48)	
		建築学部 建築学科	8 (9)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	15 (16)	0 (0)	36 (29)	
		計	78 (85)	24 (24)	9 (9)	20 (20)	131 (138)	2 (4)	— (—)	
	既設分	神学部	6 (6)	3 (3)	0 (0)	2 (2)	11 (11)	0 (0)	47 (47)	
		文学部	文化歴史学科	20 (24)	3 (3)	0 (0)	4 (0)	27 (27)	0 (0)	91 (91)
			総合心理科学科	12 (12)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	6 (6)	34 (34)
			文学言語学科	22 (25)	3 (3)	0 (0)	5 (2)	30 (30)	0 (0)	93 (93)
教養教育等			0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	149 (149)	

令和2年4月届出予定

教員組織の概要概要	既設分	社会学部	社会学科	32 (42)	8 (8)	0 (0)	12 (2)	52 (52)	0 (0)	120 (120)
			教養教育等	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	90 (90)
		法学部	法律学科	24 (24)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	83 (83)
			政治学科	10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	79 (79)
			教養教育等	12 (12)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	131 (131)
		経済学部	専門教育	25 (31)	7 (7)	8 (3)	0 (0)	40 (41)	0 (0)	57 (57)
			教養教育等	7 (9)	2 (2)	7 (6)	0 (0)	16 (17)	0 (0)	152 (152)
		商学部	専門教育	25 (25)	8 (8)	0 (0)	6 (6)	39 (39)	0 (0)	14 (14)
			教養教育等	8 (8)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	11 (11)	0 (0)	92 (92)
		総合政策学部	総合政策学科	8 (11)	4 (4)	2 (1)	0 (0)	14 (16)	0 (0)	46 (46)
			メディア情報学科	6 (9)	0 (0)	4 (2)	0 (0)	10 (11)	0 (0)	20 (20)
			都市政策学科	8 (9)	1 (1)	4 (3)	0 (0)	13 (13)	2 (2)	27 (27)
			国際政策学科	5 (8)	3 (3)	4 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	4 (4)
			教養教育等	0 (0)	1 (1)	10 (11)	0 (0)	11 (12)	0 (0)	63 (63)
		人間福祉学部	社会福祉学科	9 (9)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	15 (15)	5 (5)	86 (86)
			社会起業学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	11 (11)	0 (0)	42 (42)
			人間科学科	8 (8)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	39 (39)
			教養教育等	2 (2)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	61 (61)
		教育学部	教育学科	23 (24)	8 (9)	0 (0)	8 (6)	39 (39)	0 (0)	64 (64)
			教養教育等	3 (4)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	5 (5)	0 (0)	40 (40)
		国際学部	国際学科	24 (26)	1 (1)	8 (6)	0 (0)	33 (33)	0 (0)	76 (76)
			教養教育等	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	28 (28)
		計		306 (345)	75 (76)	62 (48)	46 (26)	489 (495)	13 (13)	— (—)
		高等教育推進センター		0 (0)	1 (1)	0 (1)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	0 (0)
		言語教育研究センター		0 (0)	1 (1)	30 (30)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	28 (31)
		教職教育研究センター		4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	51 (51)
		共通教育センター		0 (2)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	61 (80)
		ハンズオン・ラーニングセンター		1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	12 (12)
		ライティングセンター		0 (0)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	3 (3)	3 (2)	0 (0)
		スポーツ科学・健康科学教育プログラム室		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	15 (18)
		産業研究所		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		災害復興制度研究所		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		先端社会研究所		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		国際教育・協力センター		3 (3)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	63 (63)
		日本語教育センター		0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	26 (28)
		国連・外交統括センター		0 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (3)	0 (0)	4 (6)
		人権教育研究室		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	56 (61)
		キリスト教と文化研究センター		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		大学博物館		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		学長直属教員		4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
計		12 (17)	14 (14)	39 (38)	2 (2)	67 (71)	3 (2)	— (—)		
合計		396 (447)	113 (114)	110 (95)	68 (48)	687 (704)	18 (19)	— (—)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		414 (414)	408 (408)	822 (822)					
	技 術 職 員		15 (15)	0 (0)	15 (15)					
	図 書 館 専 門 職 員		22 (22)	12 (12)	34 (34)					
	そ の 他 の 職 員		6 (6)	0 (0)	6 (6)					
	計		457 (457)	420 (420)	877 (877)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	267,720 m <sup>2</sup>	23,532 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	291,252 m <sup>2</sup>	聖和短期大学 (必要面積 3,000m <sup>2</sup> )と共 用				
	運 動 場 用 地	277,464 m <sup>2</sup>	9,812 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	287,276 m <sup>2</sup>					
	小 計	545,184 m <sup>2</sup>	33,344 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	578,528 m <sup>2</sup>					
	そ の 他	44,704 m <sup>2</sup>	4,098 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	48,802 m <sup>2</sup>					
合 計	589,888 m <sup>2</sup>	37,442 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	627,330 m <sup>2</sup>						
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	聖和短期大学 (必要面積 2,850m <sup>2</sup> )と共 用					
	244,725 m <sup>2</sup> ( 244,725 m <sup>2</sup> )	20,357 m <sup>2</sup> ( 20,357 m <sup>2</sup> )	399 m <sup>2</sup> ( 399 m <sup>2</sup> )	265,481 m <sup>2</sup> ( 265,481 m <sup>2</sup> )						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	254室	172室	293室	45室 (補助職員 47人)	13室 (補助職員 10人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標本	機械・器具、標 本は神戸三田 キャンパス全体
	建築学部		324,054 [183,081] (304,563 [175,768])	11,846 [5,095] (11,053 [4,948])	12,735 [11,966] (11,975 [11,251])	8,357 (8,007)	2,239 (2,239)	0 ( 0 )		
	計		324,054 [183,081] (304,563 [175,768])	11,846 [5,095] (11,053 [4,948])	12,735 [11,966] (11,975 [11,251])	8,357 (8,007)	2,239 (2,239)	0 ( 0 )		
	図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			
26,044 m <sup>2</sup>		2,636		2,750,000		大学全体				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
16,191m <sup>2</sup>		—		—		—				
経 費 の 見 積 り 及 び 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	「経費の見積り」の開設前年度の金額は、第1年次と同額とする。
		教員1人当り研究費等		1,421千円	1,461千円	1,500千円	1,562千円	—千円	—千円	
		共同研究費等		569千円	569千円	569千円	533千円	—千円	—千円	
		図書購入費	22,339千円	22,339千円	22,339千円	22,413千円	21,525千円	—千円	—千円	
	設備購入費	13,594千円	13,594千円	13,594千円	13,594千円	12,744千円	—千円	—千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,674千円	1,674千円	1,674千円	1,674千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、寄付金収入、補助金収入、資産運用収入、資産売却収入を充当する。							

大 学 の 名 称	関西学院大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地
既設大学等の状況	神学部	4	30	—	120	学士(神学)	0.94	昭和27年	兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号
	文学部								同上
	文化歴史学科	4	275	—	1,100	学士(文学)	1.01	平成15年	
	総合心理科学科	4	175	—	700	学士(文学)	1.04	平成15年	
	文学言語学科	4	320	—	1,280	学士(文学)	1.00	平成15年	
	社会学部								同上
	社会学科	4	650	—	2,600	学士(社会学)	1.01	昭和35年	
	法学部								同上
	法律学科	4	520	—	2,080	学士(法学)	0.98	昭和23年	
	政治学科	4	160	—	640	学士(法学)	1.12	昭和23年	
	経済学部	4	680	—	2,720	学士(経済学)	1.00	昭和23年	同上
	商学部	4	650	—	2,600	学士(商学)	1.01	昭和26年	同上
	理工学部								兵庫県三田市 学園2丁目1番地
	数理科学科	4	—	—	—	学士(理学)	—	平成21年	
	物理学科	4	—	—	—	学士(理学)	—	昭和36年	
	先進エネルギー工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成27年	
	化学科	4	—	—	—	学士(理学)	—	昭和36年	
	環境・応用化学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成27年	
	生命科学科	4	—	—	—	学士(生命科学)	—	平成14年	
	生命医化学科	4	—	—	—	学士 (生命医化学)	—	平成27年	
	情報科学科	4	—	—	—	学士(情報科学)	—	平成14年	
	人間システム工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成21年	
	総合政策学部			3年次			1.00		同上
総合政策学科	4	245	20	1,020	学士(総合政策)	1.00	平成7年		
メディア情報学科	4	120	—	480	学士(総合政策)	1.00	平成14年		
都市政策学科	4	100	—	400	学士(総合政策)	1.00	平成21年		
国際政策学科	4	125	10	520	学士(総合政策)	1.00	平成21年		
人間福祉学部								兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号	
社会福祉学科	4	130	—	520	学士 (社会福祉学)	0.98	平成20年		
社会起業学科	4	70	—	280	学士(社会起業)	1.10	平成20年		
人間科学科	4	100	—	400	学士(人間科学)	1.00	平成20年		
教育学部			3年次			1.01		兵庫県西宮市 岡田山7番54号	
教育学科	4	350	5	1,410	学士(教育学)	1.01	平成25年		
国際学部								兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号	
国際学科	4	300	—	1,200	学士(国際学)	1.01	平成22年		

令和3年度より  
学生募集停止

学部一括募集を  
実施

大 学 の 名 称	関西学院大学大学院								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地
		年	人	年次人	人		倍		
既設大学等の状況	神学研究科 神学専攻 博士課程前期課程	2	10	—	20	修士（神学）	0.65	昭和27年	兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号
	博士課程後期課程	3	2	—	6	博士（神学）	0.66	昭和29年	
	文学研究科 文化歴史学専攻 博士課程前期課程	2	22	—	44	修士（哲学） 修士（美学） 修士（芸術学） 修士（歴史学） 修士（地理学）	0.47	平成19年	同上
	博士課程後期課程	3	7	—	21	博士（哲学） 博士（美学） 博士（芸術学） 博士（歴史学） 博士（地理学）	0.37	平成19年	
	総合心理科学専攻 博士課程前期課程	2	20	—	40	修士（心理科学） 修士（学校教育学）	0.72	平成19年	
	博士課程後期課程	3	6	—	18	博士（心理学） 博士（教育心理学）	0.38	平成19年	
	文学言語学専攻 博士課程前期課程	2	22	—	44	修士（文学） 修士（言語学）	0.20	平成19年	
	博士課程後期課程	3	7	—	21	博士（文学） 博士（言語学）	0.75	平成19年	
	社会学研究科 社会学専攻 博士課程前期課程	2	12	—	24	修士（社会学）	1.03	昭和36年	
	博士課程後期課程	3	4	—	12	博士（社会学）	1.08	昭和36年	
	法学研究科 法学・政治学専攻 博士課程前期課程	2	45	—	90	修士（法学）	0.21	平成16年	同上
	政治学専攻 博士課程後期課程	3	2	—	6	博士（法学）	0.33	昭和34年	
	基礎法学専攻 博士課程後期課程	3	2	—	6	博士（法学）	0.16	昭和29年	
	民刑事法学専攻 博士課程後期課程	3	2	—	6	博士（法学）	0.50	昭和38年	

大学等の名称	関西学院大学大学院									
	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
経済学研究科 経済学専攻	年	人	年次人	人		倍		兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号		
	博士課程前期課程	2	30	—	60	修士（経済学）	0.18		昭和25年	
博士課程後期課程	3	3	—	9	博士（経済学）	0.33	昭和29年			
商学研究科 商学専攻	年	人	年次人	人		倍		同上		
	博士課程前期課程	2	30	—	60	修士（商学） 修士（経営学） 修士（会計学） 修士（マーケティング） 修士（ファイナンス） 修士（ビジネス情報） 修士（国際ビジネス）	0.31		昭和28年	
博士課程後期課程	3	5	—	15	博士（商学）	0.33	昭和36年			
理工学研究科	数理学専攻	博士課程前期課程	2	10	—	20	修士（理学） 修士（工学）	1.10	平成21年	兵庫県三田市 学園2丁目1番地
		博士課程後期課程	3	2	—	6	博士（理学） 博士（工学）	0.16	平成23年	
	物理学専攻	博士課程前期課程	2	22	—	44	修士（理学） 修士（工学） 修士（国際自然科学）	0.79	昭和40年	
		博士課程後期課程	3	3	—	9	博士（理学） 博士（工学）	0.44	昭和42年	
	先進エネルギー工学専攻	博士課程前期課程	2	30	—	60	修士（理学） 修士（工学） 修士（国際自然科学）	1.08	令和元年	
		博士課程後期課程	3	2	—	4	博士（理学） 博士（工学）	0.25	令和元年	
	化学専攻	博士課程前期課程	2	33	—	66	修士（理学） 修士（工学） 修士（国際自然科学）	1.15	昭和40年	
		博士課程後期課程	3	6	—	18	博士（理学） 博士（工学）	0.55	昭和42年	
	環境・応用化学専攻	博士課程前期課程	2	35	—	70	修士（理学） 修士（工学） 修士（国際自然科学）	1.02	令和元年	
		博士課程後期課程	3	2	—	4	博士（理学） 博士（工学）	0.50	令和元年	

既設大学等の状況

大 学 の 名 称	関西学院大学大学院								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学員 定員	収容定員	学位又は 称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
既設大学等の 状況	生命科学専攻 博士課程前期課程	2	35	—	70	修士（理学） 修士（工学） 修士 （国際自然科学）	0.66	平成16年	兵庫県三田市 学園2丁目1番地
	博士課程後期課程	3	5	—	15	博士（理学） 博士（工学）	0.00	平成18年	
	生命医化学専攻 博士課程前期課程	2	30	—	60	修士（理学） 修士（工学） 修士 （国際自然科学）	0.88	令和元年	
	博士課程後期課程	3	2	—	4	博士（理学） 博士（工学）	0.50	令和元年	
	情報科学専攻 博士課程前期課程	2	22	—	44	修士（理学） 修士（工学）	1.38	平成18年	
	博士課程後期課程	3	2	—	6	博士（理学） 博士（工学）	0.16	平成18年	
	人間システム工学 専攻 博士課程前期課程	2	25	—	50	修士（理学） 修士（工学）	1.44	平成25年	
	博士課程後期課程	3	2	—	6	博士（理学） 博士（工学）	0.16	平成25年	
	総合政策研究科 総合政策専攻 博士課程前期課程	2	50	—	100	修士（総合政策）	0.28	平成11年	同上
	博士課程後期課程	3	5	—	15	博士（総合政策）	0.13	平成13年	
	言語コミュニケーション文化 研究科 言語コミュニケーション文化 専攻 博士課程前期課程	2	30	—	60	修士（言語科学） 修士 （言語文化学） 修士 （言語教育学） 修士 （日本語教育学）	0.61	平成13年	兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号
	博士課程後期課程	3	3	—	9	博士 （言語コミュニケーション 文化）	1.33	平成15年	
	人間福祉研究科 人間福祉専攻 博士課程前期課程	2	8	—	16	修士（人間福祉）	0.93	平成20年	同上
	博士課程後期課程	3	5	—	15	博士（人間福祉）	0.53	平成20年	



大 学 の 名 称	関西学院大学大学院								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地
		年	人	年次人	人		倍		
既設大学等の状況	教育学研究科 教育学専攻 博士課程前期課程	2	6	—	12	修士(教育学)	0.91	平成21年	兵庫県西宮市 岡田山7番54号
	博士課程後期課程	3	3	—	9	博士(教育学)	0.66	平成21年	
	国際学研究科 国際学専攻 博士課程前期課程	2	6	—	12	修士(国際学)	0.33	平成26年	兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号
	博士課程後期課程	3	2	—	6	博士(国際学)	0.33	平成26年	
	司法研究科 法務専攻 専門職学位課程	3	30	—	90	法務博士 (専門職)	0.94	平成16年	兵庫県西宮市 高松町5番22号 西宮ガーデンズ ゲート館 7階
	経営戦略研究科 先端マネジメント専攻 博士課程後期課程	3	4	—	12	博士 (先端マネジメント)	1.41	平成20年	兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号
	経営戦略専攻 専門職学位課程	2	100	—	200	経営管理修士 (専門職)	0.91	平成17年	大阪府大阪市北区 茶屋町19番19号 7F ロスター14階
	会計専門職専攻 専門職学位課程	2	70	—	140	会計修士 (専門職)	0.43	平成17年	兵庫県西宮市 上ヶ原一番町 1番155号
	大 学 の 名 称	聖和短期大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地
		年	人	年次人	人		倍		
	保育科	2	150	—	300	短期大学士 (保育学)	0.92	昭和25年	兵庫県西宮市 岡田山7番54号
附属施設の概要	なし								

教育課程等の概要															
(建築学部 建築学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合教育科目	キリスト教科目	キリスト教A	1 前	2			○							兼1	
		キリスト教B	1 後	2			○							兼1	
		小計 (2科目)	—	4	0	0	—	—	0	0	0	0	0	兼1	—
総合教育科目	英語教育科目	英語リーディング I A	1 前	1			○			1					
		英語リーディング I B	1 後	1			○			1					
		英語ライティング I A	1 前	1			○							兼2	
		英語ライティング I B	1 後	1			○							兼2	
		英語コミュニケーション I A	1 前	1			○							兼2	
		英語コミュニケーション I B	1 後	1			○							兼2	
		英語リーディング II A	2 前	1			○			1					
		英語リーディング II B	2 後	1			○			1					
		英語ライティング II A	2 前	1			○							兼2	
		英語ライティング II B	2 後	1			○							兼2	
		英語コミュニケーション II A	2 前	1			○							兼2	
		英語コミュニケーション II B	2 後	1			○							兼2	
	小計 (12科目)	—	12	0	0	—	—	0	1	0	0	0	兼2	—	
総合選択科目	フランス語 I	1 前	2				○							兼2	オムニバス
	フランス語 II	1 後	2				○							兼2	オムニバス
	ドイツ語 I	1 前	2				○							兼2	オムニバス
	ドイツ語 II	1 後	2				○							兼2	オムニバス
	スペイン語 I	1 前	2				○							兼2	オムニバス
	スペイン語 II	1 後	2				○							兼2	オムニバス
	中国語 I	1 前	2				○							兼2	オムニバス
	中国語 II	1 後	2				○							兼2	オムニバス
	フランス語 III	2 前	2				○							兼2	オムニバス
	フランス語 IV	2 後	2				○							兼2	オムニバス
	ドイツ語 III	2 前	2				○							兼2	オムニバス
	ドイツ語 IV	2 後	2				○							兼2	オムニバス
	スペイン語 III	2 前	2				○							兼2	オムニバス
	スペイン語 IV	2 後	2				○							兼2	オムニバス
	中国語 III	2 前	2				○							兼2	オムニバス
	中国語 IV	2 後	2				○							兼2	オムニバス
	哲学概論	1 前	2				○							兼1	
	心理学概論	1 前	2				○							兼1	
	論理学	1 前	2				○							兼1	
	日本国憲法	1 前	2				○							兼1	
	地理学概論	1 前	2				○							兼1	
	メディア社会論	1 前	2				○							兼1	
	芸術学概論	1 前	2				○							兼1	
	環境倫理	1 前	2				○							兼1	
	日本史概説	1 前	2				○							兼1	
	西洋史概説	1 後	2				○							兼1	
	東洋史概説	1 後	2				○							兼1	
	民族と文化	1 後	2				○							兼1	
	地誌学	1 後	2				○							兼1	
	科学倫理	1 後	2				○							兼1	
	美学概論	1 後	2				○							兼1	
	アート&テクノロジー	1 後	2				○							兼1	
	比較宗教思想論	2 前	2				○							兼1	
小計 (33科目)	—	0	66	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼23	—	

教育課程等の概要															
(建築学部 建築学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	専門科目基礎	微積分学Ⅰ	1 前後	2			○			1					
		微積分学Ⅱ	1 前後	2			○			1					
		線形代数学Ⅰ	1 前後	2			○							兼1	
		線形代数学Ⅱ	1 前後	2			○							兼2	
		統計学	1 前後	2			○			1					
		建築基礎物理	1 前後	2			○							兼1	
	データ解析	1 前後	2			○			1						
	小計（7科目）	—	4	10	0		—		0	2	0	0	0	兼4	—
建築・都市デザイン専門科目	総合基礎	建築・都市デザイン概論	1 前	2			○			8	6				オムニバス
		建築表現演習Ⅰ	1 前後	2				○		3	3				
	建築設計	建築表現演習Ⅱ	1 前後	2				○		3	3				
		現代建築デザイン論	1 前後	2				○		1					
		建築設計演習Ⅰ	2 前後	2				○		3	4				
		建築設計演習Ⅱ	2 前後	2				○		3	4				
		建築設計手法論	2 前	2				○		1					
		建築設計演習Ⅲ	3 前後	2					○	3	4				
		建築設計演習Ⅳ	3 前後	2					○	3	4				
		アーバンスケープデザイン論	3 前	2	2			○		1					
		建築設計演習Ⅴ	4 前	2	2				○	3	4				
	建築計画	建築計画A	2 前	2				○			1				
		建築計画B	2 後	2				○			1				
		福祉環境計画	2 後	2	2			○			1				
	歴史	建築・都市類型論	3 前	2	2			○			1				
		日本建築史	2 前	2				○			1				
		西洋建築史	2 後	2				○			1				
		近代建築史	3 前	2	2			○			1				
	環境・設備	アジア建築史	3 後	2	2			○			1				
		建築環境工学	3 前	2				○			1				
	構造	建築設備	3 後	2				○			1				
		建築構造力学Ⅰ	2 前	2				○		1					
		建築構造力学Ⅱ	2 後	2				○		1					※実習
	構法・生産	建築構造デザイン	2 後	2	2			○			1				
		建築一般構造Ⅰ	2 前	2				○			1				
		建築一般構造Ⅱ	2 後	2				○			1				
	材料	建築施工	3 前	2				○			1				
		建築材料学	2 前	2				○		1	1				
	法規	建築材料学実験	2 後	1					○	1	1				
		建築法規	3 前	2				○							兼1
	都市・地域	ランドスケープデザイン	1 後	2	2			○			1				
		都市・農村計画	2 前	2				○			1				
		都市デザイン論	2 後	2	2			○			1				
		都市調査法	2 後	2	2			○			3				兼1
		コミュニティデザイン	3 前	2	2			○			1				オムニバス
		都市解析	3 前	2	2			○							兼1
	都市政策	住宅政策論	2 後	2	2			○			1				
		都市マネジメント論	3 前	2	2			○			1				
		都市再生論	3 前	2	2			○			1				兼1
		都市防災論	3 前	2	2			○			1				
		地域再生論	3 後	2	2			○			1				
		交通政策論	3 前	2	2			○			1				
		海外開発協力論	3 後	2	2			○			1				
	都市文化	比較都市論	1 前	2	2			○			2				兼1
		都市社会学	1 後	2	2			○							オムニバス
		都市生態学	2 前	2	2			○							兼1
		都市人類学	2 後	2	2			○							兼1
	建築・都市デザイン基礎演習	デジタル表現演習Ⅰ	1 後	2					○		1				
		デジタル表現演習Ⅱ	2 前	2					○		1				
		BIM演習	2 後	2	2				○		1				
		建築・都市演習	2 前後	2	2				○		8	6			兼1
		建築プログラミング演習	3 前	2	2				○		1				
		測量実習	3 前	1						○					兼1
	GIS演習	3 後	2	2				○						集中	
	小計（54科目）	—	51	55	0		—		8	6	0	0	0	兼7	—

教育課程等の概要															
(建築学部 建築学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	建築デザイン演習	3 後		2			○		1						
	建築設計手法演習	3 後		2			○		1						
	アーバンスケープデザイン演習	3 後		2			○		1						
	建築計画演習	3 後		2			○			1					
	福祉環境計画演習	3 後		2			○			1					
	建築史・都市史演習	3 後		2			○			1					
	建築生産演習	3 後		2			○			1					
	環境設備計画演習	3 後		2			○			1					
	建築耐震構造演習	3 後		2			○		1						
	建築構造デザイン演習	3 後		2			○			1					
	都市デザイン演習	3 後		2			○		1						
	コミュニティデザイン演習	3 後		2			○		1						
	まちづくり演習	3 後		2			○		1						
	都市防災演習	3 後		2			○		1						
小計 (14科目)		—	0	28	0		—	8	6	0	0	0	兼0	—	
卒業演習・卒業研究	建築学演習	4 通	4				○		8	6					
	卒業研究	4 通	4				○		8	6					
小計 (2科目)		—	8	0	0		—	8	6	0	0	0	兼0	—	
合計 (124科目)		—	79	159	0		—	8	7	0	0	0	兼36	—	
学位又は称号		学士 (工学)			学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
卒業必要単位数128単位を以下の(1)(2)の要件を満たして履修する。 (1) 総合教育科目から32単位以上を修得する。 ただし、キリスト教科目4単位、英語教育科目12単位を含む。 (2) 専門教育科目から以下の①から④の要件を満たした上で、合計96単位以上を修得する。 ① 専門科目基礎から必修科目を含んだ8単位を修得する。 ② 建築・都市デザイン専門科目から必修科目を含んだ78単位以上を修得する。 ③ 建築・都市デザイン応用演習から2単位以上を修得する。 ④ 卒業演習・卒業研究から8単位を修得する。 なお、各学年及び学期の履修単位数制限は、前期25単位、後期24単位とする。							1学年の学期区分		2学期						
							1学期の授業期間		14週						
							1時限の授業時間		100分						

様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要														
(理工学部 先進エネルギーナノ工学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	キリスト教学A	1 前後	2			○								兼1
	キリスト教学B	1 前後	2			○								兼1
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
英語教育科目	英語リーディング I A	1 前後		1			○							兼3
	英語リーディング I B	1 前後		1			○							兼3
	英語ライティング I A	1 前後		1			○							兼4
	英語ライティング I B	1 前後		1			○							兼4
	英語コミュニケーション I A	1 前後		1			○							兼3
	英語コミュニケーション I B	1 前後		1			○							兼3
	入門英語 I A	1 前後		1			○							兼2
	入門英語 I B	1 前後		1			○							兼1
	英語リーディング II A	2 前後		1			○							兼3
	英語リーディング II B	2 前後		1			○							兼3
	英語ライティング II A	2 前後		1			○							兼3
	英語ライティング II B	2 前後		1			○							兼3
	英語コミュニケーション II A	2 前後		1			○							兼3
	英語コミュニケーション II B	2 前後		1			○							兼3
	入門英語 II A	2 前後		1			○							兼1
	入門英語 II B	2 前後		1			○							兼1
	小計 (16科目)	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼17
総合選択科目	ドイツ語読解 I	1 前後		1			○							兼1
	ドイツ語読解 II	1 前後		1			○							兼1
	フランス語読解 I	1 前後		1			○							兼1
	フランス語読解 II	1 前後		1			○							兼1
	ドイツ語文法 I	1 前後		1			○							兼1
	ドイツ語文法 II	1 前後		1			○							兼1
	フランス語文法 I	1 前後		1			○							兼1
	フランス語文法 II	1 前後		1			○							兼1
	哲学	1 前後		2			○							兼1
	論理学	1 前後		2			○							兼1
	西洋史	1 前後		2			○							兼1
	心理学	1 前後		2			○							兼1
	社会学	1 前後		2			○							兼1
	法学	1 前後		2			○							兼1
	日本国憲法	1 前後		2			○							兼1
	経済学	1 前後		2			○							兼1
	自然科学史	1 前後		2			○							兼1
	科学倫理	1 前後		2			○							兼1
	環境学	1 前後		2			○							兼4
	サイバー社会入門	1 前後		2			○							兼1
	芸術と技術	1 前後		2			○							兼1
	地誌学	1 前後		2			○							兼1
	小計 (22科目)	—	0	36	0	—			0	0	0	0	0	兼20

様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																				
(理工学部 先進エネルギーナノ工学科)																				
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考						
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手							
専門 教育 科目	必修 科目	先進エネルギーナノ工学入門	1	前	2				○			9	3						※講義	
		先進エネルギーナノ工学概論	1	前	2				○			1							※講義	
		先進エネルギーナノ工学詳論	3	前	2				○			9	3						オムニバス講義	
		ものづくり理工学実験Ⅰ	3	前	3					○		7	3						兼2	
		ものづくり理工学実験Ⅱ	3	後	3					○		7	3						兼1	
		外国書講読	4	通	2							9	3							
		輪講	4	通	2					○		9	3							
		卒業実験及び演習	4	通	8						○	9	3							※演習
小計（8科目）		—		24	0	0		—		9	3	0	0	0			兼2	—		
基礎 科目	数学系	線形代数学Ⅰ	1	前		2			○										兼1	
		微積分学Ⅰ	1	前		2			○										兼1	
		線形代数学Ⅱ	1	後		2			○										兼1	
		微積分学Ⅱ	1	後		2			○										兼1	
		物理学Ⅰ	2	前		2			○			1								
		物理学Ⅱ	2	後		2			○			1								
		線形代数学Ⅲ	2	前		2			○										兼1	
		物理学Ⅲ	3	前		2			○			1								
	物理系	物理学序論	1	前		2			○										兼1	
		デモンストラーション物理学Ⅰ	1	後		2			○										兼1	
		力学Ⅰ	1	後		2			○			1								
		力学Ⅱ	2	前		2			○										兼1	
		電磁気学Ⅰ	2	前		2			○				1							
		電磁気学演習Ⅰ	2	前		2				○			1							
ナノ物性量子力学Ⅰ	2	後		2			○			1										
ナノ物性量子力学演習Ⅰ	2	後		2				○		1										
化学系	ナノケミストリーⅠ	1	後		2			○				1								
	基礎化学A	1	前		2			○										兼1		
	基礎化学B	1	後		2			○										兼1		
	ナノケミストリーⅡ	2	前		2			○			1									
	エネルギー材料熱力学	2	後		2			○				1								
	エネルギー材料熱力学演習	2	後		2				○			1								
小計（22科目）		—		0	44	0		—		5	2	0	0	0			兼10	—		
実験 科目		基礎化学実験Ⅰ	1	後		2													兼14	
		基礎物理学実験Ⅰ	2	前		2					1	1								
		基礎物理学実験Ⅱ	2	後		2					1	1								
		小計（3科目）		—		0	6	0		—	2	2	0	0	0				兼14	—
発展 科目		コンピュータ演習A	1	前後		2				○									兼2	
		デモンストラーション物理学Ⅱ	2	前		2			○										兼1	
		電磁気学Ⅱ	2	後		2			○				1							
		電磁気学演習Ⅱ	2	後		2				○			1							
		無機化学	2	前		2			○					1					兼1	
		構造物性学	3	前		2			○					1						
		固体電子論	3	前		2			○			1								
		ナノケミストリーⅢ	3	前		2			○			1								
		ナノ物性量子力学Ⅱ	3	前		2			○			1								
		ナノ物性量子力学演習Ⅱ	3	前		2				○		1								
		統計熱力学	3	前		2			○			1								
		反応速度論	2	前		2			○											兼1
小計（12科目）		—		0	24	0		—		4	1	0	0	0			兼5	—		
先端 科目		物質設計ナノ工学	3	後		2			○											
		プロセス設計ナノ工学	3	後		2			○											
		エネルギー変換と電気化学	3	後		2			○											
		エネルギー電気・電子回路工学	3	後		2			○											
		エネルギー半導体工学	3	後		2			○											
		極限環境プロセッシング	3	前		2			○											
		ナノスケール分析科学	3	前		2			○											
		分光学	3	前		2			○											
		環境分析化学	3	後		2			○											兼1
		応用量子化学	3	後		2			○											兼1
小計（10科目）		—		0	20	0		—		7	0	0	0	0			兼3	—		

様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要														
(理工学部 先進エネルギーナノ工学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	基礎化学C	1 前		2		○								兼1
	生命科学 I	1 前		2		○								兼1
	生命科学 II	1 後		2		○								兼1
	生命科学入門実験	1 前		2				○						兼8
	海外理工学プログラムA	1 前		1		○								兼2 集中
	海外理工学プログラムB	1 前後		2		○								兼5 集中
	海外理工学プログラムC	1 前		3		○								兼5 集中 不開講
	理工学特別プログラム001	1 前		1		○								兼1 集中 不開講
	理工学特別プログラム002	1 前		2		○			1					兼1 集中
	理工学特別プログラム004	1 後		4		○								兼1 集中 不開講
	環境政策論	2 前		2		○								兼1
	環境経済学	2 後		2		○								兼1
	基礎地学 I	2 前		2		○								兼2
	基礎地学 II	2 後		2		○								兼2
	量子力学 III	3 後		2		○								兼1
	コンピュータ演習B	3 前		2			○							兼1
	科学技術英語A	3 前		2			○							兼7
	科学技術英語B	3 後		2			○							兼5
	特別英語セミナー	3 前		2					○					兼10 集中
	地学実験A	3 前		1					○					兼2 集中
小計 (20科目)		-	0	40	0	-	-	-	1	0	0	0	0	兼37 -
合計 (115科目)		-	28	184	0	-	-	-	9	3	0	0	0	兼94 -
学位又は称号		学士 (工学)		学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
卒業必要単位数128単位を以下の(1)(2)の要件を満たして履修する。 (1)総合教育科目から32単位以上を修得する。(ただし、キリスト教科目4単位、英語教育科目12単位を含む。) (2)専門教育科目から以下の①から⑥の要件を満たした上で、合計96単位以上を修得する。 ①必修科目から24単位を修得する。 ②基礎科目のうち数学系から12単位以上、物理系から8単位以上、化学系から8単位以上を修得する。 ③実験科目から4単位以上を修得する。 ④発展科目から14単位以上を修得する。 ⑤先端科目から12単位以上を修得する。 ⑥専門選択科目、卒業必要単位数を超えて修得した基礎科目、実験科目、発展科目、先端科目及び理工学部開講の専門教育科目から14単位以上を修得する。 なお、各学年及び学期の履修単位数制限は、1年前期25後期24、2年前期24後期25、3年前期25後期24、4年前期25後期24単位とする。							1学年の学期区分		2学期					
							1学期の授業期間		15週					
							1時限の授業時間		90分					

様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学部 環境・応用化学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	キリスト教学A	1 前後	2			○								兼1
	キリスト教学B	1 前後	2			○								兼1
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼1
英語教育科目	英語リーディングⅠA	1 前後		1			○							兼3
	英語リーディングⅠB	1 前後		1			○							兼3
	英語ライティングⅠA	1 前後		1			○							兼4
	英語ライティングⅠB	1 前後		1			○							兼4
	英語コミュニケーションⅠA	1 前		1			○							兼3
	英語コミュニケーションⅠB	1 後		1			○							兼3
	入門英語ⅠA	1 前後		1			○							兼2
	入門英語ⅠB	1 前後		1			○							兼1
	英語リーディングⅡA	2 前		1			○							兼3
	英語リーディングⅡB	2 後		1			○							兼3
	英語ライティングⅡA	2 前		1			○							兼3
	英語ライティングⅡB	2 後		1			○							兼3
	英語コミュニケーションⅡA	2 前		1			○							兼3
	英語コミュニケーションⅡB	2 後		1			○							兼3
	入門英語ⅡA	2 前後		1			○							兼1
	入門英語ⅡB	2 前後		1			○							兼1
	小計 (16科目)	—	0	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼19
総合選択科目	ドイツ語読解Ⅰ	1 前		1			○							兼1
	ドイツ語読解Ⅱ	1 後		1			○							兼1
	フランス語読解Ⅰ	1 前		1			○							兼1
	フランス語読解Ⅱ	1 後		1			○							兼1
	ドイツ語文法Ⅰ	1 前		1			○							兼1
	ドイツ語文法Ⅱ	1 後		1			○							兼1
	フランス語文法Ⅰ	1 前		1			○							兼1
	フランス語文法Ⅱ	1 後		1			○							兼1
	哲学	1 前		2		○								兼1
	論理学	1 前		2		○								兼1
	西洋史	1 後		2		○								兼1
	心理学	1 前		2		○								兼1
	社会学	1 後		2		○								兼1
	法学	1 前		2		○								兼1
	日本国憲法	1 前		2		○								兼1
	経済学	1 前		2		○								兼1
	自然科学史	1 前		2		○								兼1
	科学倫理	1 後		2		○								兼1
	環境学	1 後		2		○								兼4
	サイバー社会入門	1 前		2		○								兼1
	芸術と技術	1 後		2		○								兼1
	地誌学	1 前		2		○								兼1
	小計 (22科目)	—	0	36	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼20

社ニハス



様式第2号 (その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学部 環境・応用化学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 教 育 科 目	基礎化学A	1 前	2			○			1					兼1            ※演習
	基礎化学B	1 後	2			○								
	基礎化学C	1 後	2			○			1					
	環境化学	1 前	2			○			1					
	基礎化学実験 I	1 前	2					○	8	2	4			
	基礎化学実験 II	1 後	2					○	8	2	4			
	基礎物理学実験 I	2 前	2					○						
	環境・応用化学実験 I	3 前	9					○	9	2	4			
	環境・応用化学実験 II	3 後	9					○	9	2	4			
	外国書講読	4 通	2					○	9					
	輪講	4 通	2					○	9					
	卒業実験及び演習	4 通	8					○	9		2	4		
小計 (12科目)	—	44	0	0	—	—	—	9	0	2	4	0	兼3	—
数 学 ・ 物 理 科 目	線形代数学 I	1 前	2			○								兼1
	線形代数学 II	1 後	2			○								兼1
	微積分学 I	1 前	2			○								兼1
	微積分学 II	1 後	2			○								兼1
	基礎物理学A	1 前	2			○								兼1
	基礎物理学B	1 後	2			○								兼1
	線形代数学III	2 前	2			○								兼1
	基礎物理学C	2 前	2			○								兼1
	基礎物理学D	2 後	2			○								兼1
小計 (9科目)	—	0	18	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼7	—
地 学 ・ 生 命 ・ 情 報 科 目	生命科学 I	1 前	2			○								兼1
	生命科学 II	1 後	2			○			1					兼8 兼2
	生命科学入門実験	1 前	2					○						
	コンピュータ演習A	1 前後	2					○						
	基礎地学 I	2 前	2			○			2					兼11
基礎地学 II	2 後	2			○			2						
小計 (6科目)	—	0	12	0	—	—	—	3	0	0	0	0	兼11	—
基 礎 科 目	無機化学	2 前	2			○								兼1
	基礎量子化学	2 前	2			○			1					
	化学熱力学	2 後	2			○			1					
	有機反応論	2 前	2			○			1					
	有機構造論	2 前	2			○			1					
	反応速度論	2 前	2			○			1					
	高分子化学	2 後	2			○			1					
	地球環境化学	2 後	2			○			1					
	分析化学	2 前	2			○			1					
小計 (9科目)	—	0	18	0	—	—	—	7	0	0	0	0	兼1	—

様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学部 環境・応用化学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	発展物理化学	2 後		2		○			1						兼1	
	発展有機化学	2 後		2		○			1							
	錯体化学	3 前		2		○										
	応用物理化学	3 前		2		○			1							
	分光学	3 前		2		○			1							
	合成有機化学	3 前		2		○			1							
	応用有機化学	3 後		2		○			1							
	環境有機材料化学	3 前		2		○			1							
	応用物性化学	3 後		2		○			1							
	応用地球化学	3 後		2		○			2							
	応用量子化学	3 後		2		○			1							
	環境分析化学	3 後		2		○			1							
	地球物質科学	3 前		2		○			1							
	有機工業化学	3 後		2		○			1							
	小計（14科目）	—	0	28	0	—	—	—	9	0	0	0	0	0		兼1
専門選択科目	環境倫理	1 後		2		○									兼1	
	自然環境論	1 後		2		○									兼1	
	海外理工学プログラムA	1 前		1		○									兼2	集中
	海外理工学プログラムB	1 前後		2		○			2						兼3	集中
	海外理工学プログラムC	1 前		3		○									兼4	集中 不開講
	理工学特別プログラム001	1 前		1		○									兼5	集中 不開講
	理工学特別プログラム002	1 前		2		○									兼6	集中
	理工学特別プログラム004	1 後		4		○									兼7	集中 不開講
	地球環境科学実験	2 通		2				○	2						兼8	集中
	科学技術英語A	3 前		2				○							兼9	
	科学技術英語B	3 後		2				○							兼10	
	特別英語セミナー	3 前		2				○							兼11	集中
小計（12科目）	—	0	25	0	—	—	—	3	0	0	0	0	0	兼24	—	
合計（102科目）		—	48	153	0	—	—	—	9	0	2	4	0	0	兼72	—
学位又は称号	学士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
卒業必要単位数128単位を以下の(1)(2)の要件を満たして履修する。 (1)総合教育科目から32単位以上を修得する。（ただし、キリスト教科目4単位、英語教育科目12単位を含む。） (2)専門教育科目から以下の①から⑥の要件を満たした上で、合計96単位以上を修得する。 ①必修科目から44単位を修得する。 ②数学・物理科目から10単位以上を修得する。 ③地学・生命・情報科目から4単位以上を修得する。 ④基礎科目から14単位以上を修得する。 ⑤発展科目から16単位以上を修得する。 ⑥専門選択科目、卒業必要単位数を超えて修得した数学・物理科目、地学・生命・情報科目、基礎科目、発展科目及び理工学部開講専門教育科目から8単位以上を修得すること。 なお、各学年及び学期の履修単位数制限は、1年前期25後期24、2年前期24後期24、3年前期25後期24、4年前期25後期24単位とする。						1学年の学期区分				2学期						
						1学期の授業期間				15週						
						1時限の授業時間				90分						

様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学部 生命科学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
総合 教育 科目	キリスト教学A	1 前	2			○								兼1	
	キリスト教学B	1 後	2			○								兼1	
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—
英語 教育 科目	英語リーディングⅠA	1 前後		1			○							兼2	
	英語リーディングⅠB	1 前後		1			○							兼2	
	英語ライティングⅠA	1 前後		1			○							兼4	
	英語ライティングⅠB	1 前後		1			○							兼4	
	英語コミュニケーションⅠA	1 前		1			○							兼3	
	英語コミュニケーションⅠB	1 後		1			○							兼3	
	入門英語ⅠA	1 前後		1			○							兼2	
	入門英語ⅠB	1 前後		1			○							兼1	
	英語リーディングⅡA	2 前		1			○							兼3	
	英語リーディングⅡB	2 後		1			○							兼3	
	英語ライティングⅡA	2 前		1			○							兼3	
	英語ライティングⅡB	2 後		1			○							兼3	
	英語コミュニケーションⅡA	2 前		1			○							兼3	
	英語コミュニケーションⅡB	2 後		1			○							兼3	
	入門英語ⅡA	2 前後		1			○							兼1	
	入門英語ⅡB	2 前後		1			○							兼1	
	小計 (16科目)	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼16	—
総合 選択 科目	ドイツ語読解Ⅰ	1 前		1			○							兼1	
	ドイツ語読解Ⅱ	1 後		1			○							兼1	
	フランス語読解Ⅰ	1 前		1			○							兼1	
	フランス語読解Ⅱ	1 後		1			○							兼1	
	ドイツ語文法Ⅰ	1 前		1			○							兼1	
	ドイツ語文法Ⅱ	1 後		1			○							兼1	
	フランス語文法Ⅰ	1 前		1			○							兼1	
	フランス語文法Ⅱ	1 後		1			○							兼1	
	哲学	1 前		2		○								兼1	
	論理学	1 前		2		○								兼1	
	西洋史	1 後		2		○								兼1	
	心理学	1 前		2		○								兼1	
	社会学	1 後		2		○								兼1	
	法学	1 前		2		○								兼1	
	日本国憲法	1 前		2		○								兼1	
	経済学	1 前		2		○								兼1	
	自然科学史	1 前		2		○								兼1	
	科学倫理	1 後		2		○								兼1	
	環境学	1 後		2		○								兼4 オムニバス	
	サイバー社会入門	1 前		2		○								兼1	
	芸術と技術	1 後		2		○								兼1	
	近代日本とアジア	1 前		2		○								不開講	
	地誌学	1 前		2		○								兼1	
	小計 (23科目)	—	0	38	0	—			0	0	0	0	0	兼20	—

様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学部 生命科学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 教育 科目	必修科目	生命科学 I	1 前	2			○			1					兼2            ※演習
	生命科学 II	1 後	2			○			1						
	生命科学入門実験	1 後	2					○	1	2		3			
	コンピュータ演習A	1 前	2					○	1						
	生物分析化学	2 後	2			○			1						
	細胞・組織学実験	2 後	3					○	1	2	1	2			
	生命分子・生化学実験	2 前	3					○	2	1	1	2			
	先端生命科学実験 I	3 前	8					○	2	3	2	2			
	先端生命科学実験 II	3 後	8					○	3	1		3			
	外国書講読	4 通	2					○	5	4					
	輪講	4 通	2					○	5	4					
	卒業実験及び演習	4 通	8					○	5	4	2	5			
小計 (12科目)		—	44	0	0		—		5	4	2	5	0	兼2	—
基礎 科目	生命科学有機化学	1 後	2			○								兼1	兼3 オムニバス           集中
	生命科学倫理	1 後	2			○								兼3	
	化学概論	1 前	2			○								兼1	
	微積分学 I	1 前	2			○				1					
	基礎物理学A	1 前	2			○								兼1	
	基礎物理学B	1 後	2			○								兼1	
	基礎化学A	1 前	2			○								兼1	
	基礎化学B	1 後	2			○								兼1	
	基礎化学C	1 後	2			○								兼1	
	基礎化学実験 I	1 前	2					○						兼10	
	線形代数学 I	1 後	2			○								兼1	
	プログラミング演習	1 後	2					○		1				兼2	
	サブゼミ	1 前	2					○			2	5			
	臨海実験	1 前	2					○	4	2				兼9	
系統分類学	2 前	2			○								兼1		
小計 (15科目)		—	30	0		—			4	3	2	5	0	兼3	—
発展 科目	生命工学	2 後	2			○								兼2	兼2 兼1 兼1       兼1 兼2 兼1
	生化学	2 前	2			○								兼1	
	薬理学	2 前	2			○								兼1	
	分子遺伝学	2 前	2			○				1					
	発生生物学	2 後	2			○								兼1	
	生命代謝化学	2 後	2			○			1						
	微生物学	2 後	2			○			1						
	生物統計学	2 後	2			○				1					
	細胞学	2 後	2			○								兼1	
	数理生物学	2 前	2			○			1						
	データ科学演習	2 前	2					○	1	1				兼2	
バイオインフォマティクス	3 後	2			○								兼1		
小計 (12科目)		—	0	24	0		—		3	2	0	0	0	兼8	—

様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学部 生命科学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専 門 教 育 科 目	先端科目	植物分子生物学	3 後		2		○				1					
		器官形成学	3 前		2		○			1						
		植物分子生理学	3 前		2		○			1						
		遺伝子工学	3 前		2		○			1						
		生態システム学	3 後		2		○			1						
		染色体機能学	3 後		2		○			1						
		化学生態学	3 前		2		○				1					
		生物工学	3 後		2		○				1					
	小計 (8科目)	—	0	16	0	—			5	3	0	0	0	兼0	—	
専 門 選 択 科 目	情報科学概論	1 前		2		○								兼11	オムニバス	
	人間システム工学概論	1 後		2		○								兼4	オムニバス	
	自然環境論	1 後		2		○								兼1		
	海外理工学プログラムA	1 前		1		○								兼2	集中	
	海外理工学プログラムB	1 前後		2		○			1					兼4	集中	
	海外理工学プログラムC	1 前		3		○									集中	不開講
	理工学特別プログラム001	1 前		1		○									集中	不開講
	理工学特別プログラム002	1 前		2		○									集中	不開講
	理工学特別プログラム004	1 後		4		○								兼1	集中	不開講
	基礎物理学実験 I	2 前		2				○						兼2		
	基礎地学 I	2 前		2			○							兼2		
	基礎地学 II	2 後		2			○							兼2		
	再生医学	3 前		2			○							兼1		
	発がん分子機構学	3 前		2			○									不開講
	環境医化学	3 前		2			○							兼1		
	免疫学	3 後		2			○							兼1		
	脳神経科学	3 前		2			○							兼1		
	医学統計学	3 前		2			○							兼1		
	エビゲノム医化学	3 後		2			○							兼1		
	病態生理学	3 後		2			○							兼1		
	科学技術英語A	3 前		2				○						兼7		
	科学技術英語B	3 後		2				○						兼5		
	特別英語セミナー	3 前		2					○					兼10	集中	
	地学実験A	3 前		1					○					兼2	集中	
	先進エネルギーナノ工学詳論	3 前		2				○						兼12	オムニバス※講義	
	小計 (25科目)	—	0	50	0	—			1	0	0	0	0	兼57	—	
合計 (113科目)			—	48	174	0	—		5	4	2	5	0	兼108	—	
学位又は称号	学士 (生命科学)		学位又は学科の分野			理学関係、工学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
卒業必要単位数128単位を以下の(1)(2)の要件を満たして履修する。 (1)総合教育科目から32単位以上を修得する。(ただし、キリスト教科目4単位、英語教育科目12単位を含む。) (2)専門教育科目から以下の①から⑤の要件を満たした上で、合計96単位以上を修得する。 ①必修科目から44単位を修得する。 ②基礎科目から16単位以上を修得する。 ③発展科目から12単位以上を修得する。 ④先端科目から12単位以上を修得する。 ⑤専門選択科目、卒業必要単位数を超えて修得した基礎科目、発展科目、先端科目及び理工学部開講専門教育科目から12単位以上を修得すること。なお、各学年及び学期の履修単位数制限は、1年前期25後期24、2年前期24後期24、3年前期25後期24、4年前期25後期24単位とする。						1 学年の学期区分			2学期							
						1 学期の授業期間			15週							
						1 時限の授業時間			90分							

様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学部 生命医化学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	キリスト教学A	1 前後	2			○								兼1
	キリスト教学B	1 前後	2			○								兼1
	小計(2科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
英語教育科目	英語リーディングⅠA	1 前後		1			○							兼4
	英語リーディングⅠB	1 前後		1			○							兼4
	英語ライティングⅠA	1 前後		1			○							兼4
	英語ライティングⅠB	1 前後		1			○							兼4
	英語コミュニケーションⅠA	1 前		1			○							兼2
	英語コミュニケーションⅠB	1 後		1			○							兼2
	入門英語ⅠA	1 前後		1			○							兼2
	入門英語ⅠB	1 前後		1			○							兼1
	英語リーディングⅡA	2 前		1			○							兼3
	英語リーディングⅡB	2 後		1			○							兼3
	英語ライティングⅡA	2 前		1			○							兼3
	英語ライティングⅡB	2 後		1			○							兼3
	英語コミュニケーションⅡA	2 前		1			○							兼3
	英語コミュニケーションⅡB	2 後		1			○							兼3
	入門英語ⅡA	2 前後		1			○							兼1
	入門英語ⅡB	2 前後		1			○							兼1
	小計(16科目)	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼18
総合選択科目	ドイツ語読解Ⅰ	1 前		1			○							兼1
	ドイツ語読解Ⅱ	1 後		1			○							兼1
	フランス語読解Ⅰ	1 前		1			○							兼1
	フランス語読解Ⅱ	1 後		1			○							兼1
	ドイツ語文法Ⅰ	1 前		1			○							兼1
	ドイツ語文法Ⅱ	1 後		1			○							兼1
	フランス語文法Ⅰ	1 前		1			○							兼1
	フランス語文法Ⅱ	1 後		1			○							兼1
	哲学	1 前		2		○								兼1
	論理学	1 前		2		○								兼1
	西洋史	1 後		2		○								兼1
	心理学	1 前		2		○								兼1
	社会学	1 後		2		○								兼1
	法学	1 前		2		○								兼1
	日本国憲法	1 前		2		○								兼1
	経済学	1 前		2		○								兼1
	自然科学史	1 前		2		○								兼1
	科学倫理	1 後		2		○								兼1
	環境学	1 後		2		○								兼4 対面二ハス
	サイバー社会入門	1 前		2		○								兼1
	芸術と技術	1 後		2		○								兼1
	地誌学	1 前		2		○								兼1
	小計(22科目)	—	0	36	0	—			0	0	0	0	0	兼20

様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学部 生命医化学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	生命科学Ⅰ	1 前	2			○								兼1	
	生命科学Ⅱ	1 後	2			○								兼1	
	生命科学入門実験	1 後	2					○	2	1	1	2		兼2	
	コンピュータ演習A	1 前	2				○		1	1					
	基礎医化学実験Ⅰ	2 前	3					○	3		2	1			
	基礎医化学実験Ⅱ	2 後	3					○	3	1	1	3			
	先端医化学実験Ⅰ	3 前	8					○	3	1	1	2			
	先端医化学実験Ⅱ	3 後	8					○	5	1	2	4			
	外国書講読	4 通	2				○		7	2					
	輪講	4 通	2				○		7	2					
	卒業実験及び演習	4 通	8					○	7	2	2	5		※演習	
小計(11科目)	—		42	0	0	—			7	2	2	5	0	兼4	—
基礎科目	生命有機化学	1 後		2		○			1						
	生命科学倫理	1 後		2		○			3						
	化学概論	1 前		2		○			1						
	微積分Ⅰ	1 前		2		○								兼1	
	基礎物理学A	1 前		2		○								兼1	
	基礎物理学B	1 後		2		○								兼1	
	基礎化学A	1 前		2		○								兼1	
	基礎化学B	1 後		2		○								兼1	
	基礎化学C	1 後		2		○								兼1	
	基礎化学実験Ⅰ	1 前		2				○						兼14	
	線形代数学Ⅰ	1 後		2		○				1					
	プログラミング演習	1 後		2			○		1	1				兼1	
	基礎医化学入門	1 前		2			○				2	5			
	系統分類学	2 前		2		○			1						
小計(14科目)	—		0	28	0	—			6	1	2	5	0	兼19	—
発展科目	生命工学	2 後		2		○			1				1		
	生化学	2 前		2		○			1						
	薬理学	2 前		2		○			1						
	分子遺伝学	2 前		2		○								兼1	
	発生生物学	2 後		2		○			1						
	生命代謝化学	2 後		2		○								兼1	
	微生物学	2 後		2		○								兼1	
	細胞学	2 後		2		○				1					
	生物分析化学	2 後		2		○								兼1	
	生物統計学	2 後		2		○								兼1	
	数理生物学	2 前		2		○								兼1	
	データ科学演習	2 前		2			○		1	1				兼2	
	バイオインフォマティクス	3 後		2		○			1						
小計(13科目)	—		0	26	0	—			5	2	0	0	0	兼6	—

様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学部 生命医化学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	再生医学	3 前		2		○			1					不開講	
	発がん分子機構学	3 前		2		○									
	環境医化学	3 前		2		○			1						
	免疫学	3 後		2		○			1						
	脳神経科学	3 前		2		○			1						
	医学統計学	3 前		2		○				1					
	エピゲノム医化学	3 後		2		○				1					
	病態生理学	3 後		2		○			1						
	小計(8科目)	—	0	16	0	—	—	—	5	2	0	0	0		兼0
生命科学科目	器官形成学	3 前		2		○								兼1	
	遺伝子工学	3 前		2		○								兼1	
	生態システム学	3 後		2		○								兼1	
	染色体機能学	3 後		2		○								兼1	
	化学生態学	3 前		2		○								兼1	
	生物工学	3 後		2		○								兼1	
小計(6科目)	—	0	12	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼6	—	
専門選択科目	情報科学概論	1 前		2		○								兼11 オムニバス	
	人間システム工学概論	1 後		2		○								兼4 オムニバス	
	臨海実験	1 前		2				○						兼15 集中	
	自然環境論	1 後		2		○								兼1	
	海外理工学プログラムA	1 前		1		○								兼2 集中	
	海外理工学プログラムB	1 前後		2		○			1					兼4 集中	
	海外理工学プログラムC	1 前		3		○								集中 不開講	
	理工学特別プログラム001	1 前		1		○								集中 不開講	
	理工学特別プログラム002	1 前		2		○								兼1 集中	
	理工学特別プログラム004	1 後		4		○								兼1 集中 不開講	
	基礎物理学実験 I	2 前		2				○						兼2	
	基礎地学 I	2 前		2		○								兼2	
	基礎地学 II	2 後		2		○								兼2	
	植物分子生物学	3 後		2		○								兼1	
	植物分子生理学	3 前		2		○								兼1	
	地学実験A	3 前		1				○						兼2 集中	
	科学技術英語A	3 前		2				○						兼7	
科学技術英語B	3 後		2				○						兼5		
特別英語セミナー	3 前		2				○						兼10 集中		
先進エネルギーナノ工学詳論	3 前		2				○						兼12 オムニバス※講義		
小計(20科目)	—	0	40	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼64	—	
合計(112科目)		—	46	174	0	—	—	—	7	2	2	5	0	兼109	—
学位又は称号		学士(生命医化学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係							
卒業要件及び履修方法															
卒業必要単位数128単位を以下の(1)(2)の要件を満たして履修する。 (1)総合教育科目から32単位以上を修得する。(ただし、キリスト教科目4単位、英語教育科目12単位を含む。) (2)専門教育科目から以下の①から⑤の要件を満たした上で、合計96単位以上を修得する。 ①必修科目から42単位を修得する。 ②基礎科目から16単位以上を修得する。 ③発展科目から14単位以上を修得する。 ④先端科目及び生命科学科目から12単位以上を修得する。(うち8単位は先端科目。) ⑤専門選択科目、卒業必要単位数を超えて修得した基礎科目、発展科目、先端科目、生命科学科目及び理工学部開講専門教育科目から12単位以上を修得する。 なお、各学年及び学期の履修単位数制限は、1年前期25後期24、2年前期24後期24、3年前期25後期24、4年前期25後期24単位とする。								1 学年の学期区分			2 学期				
								1 学期の授業期間			15週				
								1 時限の授業時間			90分				



様式第2号 (その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学部 情報科学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合教育科目 英語教育科目	キリスト教学A	1 前後	2			○								兼1		
	キリスト教学B	1 前後	2			○								兼1		
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼1	—	
	英語リーディングⅠA	1 前後		1			○								兼3	
	英語リーディングⅠB	1 前後		1			○								兼3	
	英語ライティングⅠA	1 前後		1			○								兼4	
	英語ライティングⅠB	1 前後		1			○								兼4	
	英語コミュニケーションⅠA	1 前		1			○								兼2	
	英語コミュニケーションⅠB	1 後		1			○								兼2	
	入門英語ⅠA	1 前後		1			○								兼2	
	入門英語ⅠB	1 前後		1			○								兼1	
	英語リーディングⅡA	2 前		1			○								兼3	
	英語リーディングⅡB	2 後		1			○								兼3	
	英語ライティングⅡA	2 前後		1			○								兼2	
	英語ライティングⅡB	2 後		1			○								兼2	
	英語コミュニケーションⅡA	2 前		1			○								兼3	
	英語コミュニケーションⅡB	2 後		1			○								兼3	
	入門英語ⅡA	2 前後		1			○								兼1	
	入門英語ⅡB	2 前後		1			○								兼1	
	小計 (16科目)	—	0	16	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼18	—
総合選択科目	ドイツ語読解Ⅰ	1 前		1			○								兼1	
	ドイツ語読解Ⅱ	1 後		1			○								兼1	
	フランス語読解Ⅰ	1 前		1			○								兼1	
	フランス語読解Ⅱ	1 後		1			○								兼1	
	ドイツ語文法Ⅰ	1 前		1			○								兼1	
	ドイツ語文法Ⅱ	1 後		1			○								兼1	
	フランス語文法Ⅰ	1 前		1			○								兼1	
	フランス語文法Ⅱ	1 後		1			○								兼1	
	哲学	1 前		2		○									兼1	
	論理学	1 前		2		○									兼1	
	西洋史	1 後		2		○									兼1	
	心理学	1 前		2		○									兼1	
	社会学	1 後		2		○									兼1	
	法学	1 前		2		○									兼1	
	日本国憲法	1 前		2		○									兼1	
	経済学	1 前		2		○									兼1	
	自然科学史	1 前		2		○									兼1	
	科学倫理	1 後		2		○									兼1	
	環境学	1 後		2		○									兼4	ムコパス
	サイバー社会入門	1 前		2		○									兼1	
	芸術と技術	1 後		2		○									兼1	
	近代日本とアジア	1 前		2		○									兼1	不開講
	地誌学	1 前		2		○									兼1	
小計 (23科目)	—	0	38	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼20	—	
専門教育科目 必修科目	情報科学概論	1 前	2			○			10	1					兼1	ムコパス
	キャリアデザイン論	1 前	2			○									兼1	
	コンピュータ演習A	1 前	2				○		1	1					兼3	
	プログラミング実習Ⅰ	1 後	2					○	3	1					兼2	
	プログラミング実習Ⅱ	2 前	2					○	1						兼4	
	プログラミング実習Ⅲ	2 後	2					○	3						兼1	
	情報システム領域実習A(*1)	3 前	1					○	5							
	ネットワークシステム領域実習A(*1)	3 前	1					○	5	1						
	情報システム領域実習B(*2)	3 後	1					○	5							
	ネットワークシステム領域実習B(*2)	3 後	1					○	5	1						

様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学部 情報科学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	外国書講読	4 通	2					○		10	1					
	輪講	4 通	2					○		10	1					
	卒業実験及び演習（情報システムコース）（*3）	4 通	8						○	5						※演習
	卒業実験及び演習（ネットワークシステムコース）（*3）	4 通	8						○	5	1					※演習
	小計（14科目）	—	36	0	0			—		10	1	0	0	0	兼10	—
情報科学実習科目	数理計画法実習	3 前		1				○		1						
	知識情報処理実習	3 前		1				○		1						
	情報理論実習	3 前		1				○		1						
	デジタル信号処理実習	3 前		1				○		1						
	数式処理実習	3 後		1				○		1						
	グラフ・ネットワーク実習	3 後		1				○		1						
	データ構造とアルゴリズム実習	3 後		1				○		1	1					
	コンパイラ実習	3 後		1				○		1						
	ネットワーク実習	3 後		1				○		1						
	データマイニング実習	3 前		1				○		1						
	ネットワークコンピューティング実習	3 後		1				○		1						
小計（11科目）	—	0	11	0			—		10	1	0	0	0	兼0	—	
人間システム工学実習・実験科目	音声情報処理実習	3 前		1				○								兼1
	音楽情報処理実習	3 前		1				○								兼2
	認知情報処理実験	3 前		1				○								兼1
	ユビキタスコンピューティング実験	3 後		1				○								兼1
	画像情報処理実習	3 前		1				○								兼1
	デザイン・コンテンツテクノロジー実習	3 後		1				○								兼2
	エルゴノミクスコンピューティング実習	3 後		1				○								兼1
	感性情報処理実習	3 後		1				○								兼1
	コンピュータグラフィックス実習	3 後		1				○								兼1
	CAD/CAM/CAE実習	3 前		1				○								兼1
	ロボット工学実験	3 前		1				○								兼1
	ヒューマンコンピュータインタラクション実験	3 前		1				○								兼1
小計（12科目）	—	0	12	0			—		0	0	0	0	0	兼13	—	
基礎科目	微積分学Ⅰ	1 前		2			○									兼1
	線形代数学Ⅰ	1 前		2			○									兼1
	論理回路	1 前		2			○			1						
	微積分学Ⅱ	1 後		2			○									兼1
	線形代数学Ⅱ	1 後		2			○									兼1
	離散数論	1 後		2			○			1						
	コンピュータアーキテクチャ	1 後		2			○			1						
	情報科学のための確率・統計	2 前		2			○									兼1
	情報科学のための数学演習	2 前		2				○		2						
	情報理論	2 前		2			○			1						
	ネットワーク	2 前		2			○			1						
	データ構造とアルゴリズム	2 後		2			○				1					
	データベース	2 後		2			○			1						
	形式言語とオートマトン	2 後		2			○									兼1
グラフ・ネットワーク理論	2 後		2			○			1							
情報処理技術演習	3 前		2				○		2	1					兼1	
小計（16科目）	—	0	32	0			—		8	1	0	0	0	兼5	—	

様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学部 情報科学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専 門 教 育 科 目	発展科目															
	基礎物理学A	1 前		2		○									兼1	
	基礎物理学B	1 後		2		○									兼1	
	数理論理学	2 前		2		○			1							
	デジタル信号処理	2 後		2		○			1							
	計算論	3 前		2		○			1							
	符号理論	3 前		2		○			1							
	オペレーティングシステム	3 前		2		○			1							
	コンパイラ	3 前		2		○			1							
	最適化理論	3 前		2		○			1							
	知識情報処理	3 前		2		○			1							
	デジタル通信	3 後		2		○			1							
	モデリング物理学	3 前		2		○			1							
	計算幾何学	3 前		2		○			1							
	数値計算	3 後		2		○			1							
	ソフトウェア工学	3 後		2		○									兼1	
	データマイニング	3 前		2		○			1							
	ネットワークコンピューティング	3 後		2		○			1							
	暗号と情報セキュリティ	3 後		2		○			1							
ネットワーク設計論	3 後		2		○			1								
小計 (19科目)		—	0	38	0	—		9	0	0	0	0	0	兼3	—	
人 間 シ ス テ ム 工 学 系 科 目	人間システム工学概論	1 前		2		○									兼2	ムニバス
	メディア工学基礎	1 後		2		○									兼1	
	制御工学	2 後		2		○									兼1	
	メディア信号処理	2 前		2		○									兼1	
	メディア・ロボット実験	2 後		2				○							兼5	
	デザイン論	2 後		2		○									兼2	
	ヒューマンコンピュータインタラクション	2 後		2		○									兼1	
	機械の力学	2 前		2		○									兼1	
	知能コンピューティング	2 後		2		○									兼2	
	ヒューマンデータ分析	2 前		2		○									兼1	
	音楽情報処理	3 前		2		○									兼1	
	音声情報処理	3 前		2		○									兼1	
	画像情報処理	3 前		2		○									兼1	
	認知情報処理	3 前		2		○									兼1	
	感性情報処理	3 後		2		○									兼1	
	コンテンツテクノロジー	3 後		2		○									兼2	
	コンピュータグラフィックス	3 後		2		○									兼1	
	バーチャルリアリティ	3 後		2		○									兼1	
	ロボティクス	3 前		2		○										不開講
	応用数学	3 後		2		○										不開講
小計 (20科目)		—	0	40	0	—		0	0	0	0	0	0	兼13	—	

様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学部 情報科学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育 科目	生命科学Ⅰ	1 前		2		○								兼1	
	生命科学Ⅱ	1 後		2		○								兼1	
	情報化社会と人間	1 後		2		○								兼1	
	メディア社会論	1 前		2		○								兼1	
	デモンストレーション物理学Ⅰ	1 後		2		○								兼1	
	海外理工学プログラムA	1 前		1		○			1					兼1	集中
	海外理工学プログラムB	1 前後		2		○								兼5	集中
	海外理工学プログラムC	1 前		3		○								兼5	集中 不開講
	理工学特別プログラム001	1 前		1		○								兼1	集中 不開講
	理工学特別プログラム002	1 前		2		○								兼1	集中
	理工学特別プログラム004	1 後		4		○								兼1	集中 不開講
	基礎物理学実験Ⅰ	2 前		2				○						兼2	
	デモンストレーション物理学Ⅱ	2 前		2		○								兼1	
	科学技術英語A	3 前		2				○						兼7	
	科学技術英語B	3 後		2				○						兼5	
	特別英語セミナー	3 前		2					○					兼10	集中
	確率統計Ⅰ	3 前		2		○								兼1	
	アーカイブ・デザイン	3 前		2		○								兼1	
	知的財産戦略論	3 前		2		○								兼1	
	サイバースペースの法と倫理	3 後		2		○								兼5	
	コンピュータ・アート	3 前		2		○								兼1	
小計 (21科目)		—	0	43	0	—	—	—	1	0	0	0	0	兼39	—
合計 (154科目)		—	40	230	0	—	—	—	10	1	0	0	0	兼86	—
学位又は称号		学士 (情報科学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
卒業必要単位数128単位を以下の(1)(2)の要件を満たして履修する。 (1)総合教育科目から32単位以上を修得する。(ただし、キリスト教科目4単位、英語教育科目12単位を含む。) (2)専門教育科目から以下の①から⑤の要件を満たした上で、合計96単位以上を修得する。 ①必修科目から26単位を修得する。 (ただし、(*1)、(*2)、(*3)はそれぞれいずれか一方を履修。) ②情報科学実習科目及び人間システム工学実習・実験科目から6単位以上を修得する。 (うち4単位は情報科学実習科目。) ③基礎科目から24単位以上を修得する。 ④発展科目及び人間システム工学系科目から24単位以上を修得する。 (うち16単位は発展科目。) ⑤専門選択科目、卒業必要単位数を超えて修得した情報科学実習科目、人間システム工学実習・実験科目、基礎科目、発展科目、人間システム工学系科目及び理工学部開講専門教育科目から16単位以上を修得する。 なお、各学年及び学期の履修単位数制限は、1年前期25後期23、2年前期25後期23、3年前期24後期25、4年前期24後期25単位とする。							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(理工学部 人間システム工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合教育科目	キリスト教学A	1 前	2			○								兼1
	キリスト教学B	1 後	2			○								兼1
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1
英語教育科目	英語リーディングⅠA	1 前後		1			○							兼4
	英語リーディングⅠB	1 前後		1			○							兼4
	英語ライティングⅠA	1 前後		1			○							兼4
	英語ライティングⅠB	1 前後		1			○							兼4
	英語コミュニケーションⅠA	1 前		1			○							兼3
	英語コミュニケーションⅠB	1 後		1			○							兼3
	入門英語ⅠA	1 前後		1			○							兼2
	入門英語ⅠB	1 前後		1			○							兼1
	英語リーディングⅡA	2 前		1			○							兼3
	英語リーディングⅡB	2 後		1			○							兼3
	英語ライティングⅡA	2 前		1			○							兼3
	英語ライティングⅡB	2 後		1			○							兼3
	英語コミュニケーションⅡA	2 前		1			○							兼3
	英語コミュニケーションⅡB	2 後		1			○							兼3
	入門英語ⅡA	2 前後		1			○							兼1
	入門英語ⅡB	2 前後		1			○							兼1
	小計 (16科目)	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	兼19
総合選択科目	ドイツ語読解Ⅰ	1 前		1			○							兼1
	ドイツ語読解Ⅱ	1 後		1			○							兼1
	フランス語読解Ⅰ	1 前		1			○							兼1
	フランス語読解Ⅱ	1 後		1			○							兼1
	ドイツ語文法Ⅰ	1 前		1			○							兼1
	ドイツ語文法Ⅱ	1 後		1			○							兼1
	フランス語文法Ⅰ	1 前		1			○							兼1
	フランス語文法Ⅱ	1 後		1			○							兼1
	哲学	1 前		2		○								兼1
	論理学	1 前		2		○								兼1
	西洋史	1 後		2		○								兼1
	心理学	1 前		2		○								兼1
	社会学	1 後		2		○								兼1
	法学	1 前		2		○								兼1
	日本国憲法	1 前		2		○								兼1
	経済学	1 前		2		○								兼1
	自然科学史	1 前		2		○								兼1
	科学倫理	1 後		2		○								兼1
	環境学	1 後		2		○								兼4
	サイバー社会入門	1 前		2		○								兼1
	芸術と技術	1 後		2		○								兼1
	近代日本とアジア	1 前		2		○								不開講
	地誌学	1 前		2		○								兼1
	小計 (23科目)	—	0	38	0	—			0	0	0	0	0	兼20

様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学部 人間システム工学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門 教育 科目	キャリアデザイン論	1 前	2			○									兼1	オムニバス
	コンピュータ演習A	1 前	2				○		3						兼2	
	人間システム工学概論	1 前	2			○			2							
	人間システム工学のための数学演習 I	1 前	2				○		2							
	人間システム工学のための数学演習 II	1 後	2				○		2							
	プログラミング実習 I	1 後	2					○	2						兼4	
	メディア工学基礎	1 後	2			○			1							
	プログラミング実習 II	2 前	2					○	4						兼1	
	メディア・ロボット実験	2 後	2					○	5							
	映像音響システム領域実習A(*1)	3 前	1					○	5							
	サイバーロボティクス領域実習A(*1)	3 前	1					○	6							
	映像音響システム領域実習B(*2)	3 後	1					○	5							
	サイバーロボティクス領域実習B(*2)	3 後	1					○	6							
	外国書講読	4 通	2					○	11							
	輪講	4 通	2					○	11							
	卒業実験及び演習(映像音響システムコース)(*3)	4 通	8					○	5						※演習	
	卒業実験及び演習(サイバーロボティクスコース)(*3)	4 通	8					○	6						※演習	
小計(17科目)		—	42	0	0		—		11	0	0	0	0	兼7	—	
人間 シ ス テ ム 工 学 実 習 ・ 実 験 科 目	音声情報処理実習	3 前		1				○	1							兼1
	音楽情報処理実習	3 前		1				○	1							
	認知情報処理実験	3 前		1				○	1							
	ユビキタスコンピューティング実験	3 後		1				○	1							
	画像情報処理実習	3 前		1				○	1							
	デザイン・コンテンツテクノロジー実習	3 後		1				○	1						兼1	
	エルゴノミクスコンピューティング実習	3 後		1				○	1							
	感性情報処理実習	3 後		1				○	1							
	コンピュータグラフィックス実習	3 後		1				○	1							
	CAD/CAM/CAE実習	3 前		1				○	1							
	ロボット工学実験	3 前		1				○	1							
ヒューマンコンピュータインタラクション実験	3 前		1				○	1								
小計(12科目)		—	0	12	0		—		11	0	0	0	0	兼2	—	
情 報 科 学 実 習 科 目	数理計画法実習	3 前		1				○							兼1	兼1
	知識情報処理実習	3 前		1				○								
	情報理論実習	3 前		1				○								
	デジタル信号処理実習	3 前		1				○								
	数式処理実習	3 後		1				○								
	グラフ・ネットワーク実習	3 後		1				○								
	データ構造とアルゴリズム実習	3 後		1				○								
	コンパイラ実習	3 後		1				○								
	ネットワーク実習	3 後		1				○								
	データマイニング実習	3 前		1				○								
ネットワークコンピューティング実習	3 後		1				○									
小計(11科目)		—	0	11	0		—		0	0	0	0	0	兼11	—	

様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学部 人間システム工学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	基礎科目	微積分学Ⅰ	1	前		2		○								兼1
		線形代数学Ⅰ	1	前		2		○								兼1
		論理回路	1	前		2		○								兼1
		微積分学Ⅱ	1	後		2		○								兼1
		線形代数学Ⅱ	1	後		2		○								兼1
		離散数論	1	後		2		○								兼1
		コンピュータアーキテクチャ	1	後		2		○								兼1
		情報科学のための確率・統計	2	前		2		○			1					
		制御工学	2	後		2		○			1					
		メディア信号処理	2	前		2		○			1					
		情報理論	2	前		2		○								兼1
		データ構造とアルゴリズム	2	後		2		○								兼1
		ヒューマンコンピュータインタラクション	2	後		2		○			1					
		プログラミング実習Ⅲ	2	後		2				○	1					兼3
		機械の力学	2	前		2		○			1					
		知能コンピューティング	2	後		2		○			2					
		ヒューマンデータ分析	2	前		2		○			1					
		情報処理技術演習	3	前		2				○	1					兼3
小計(18科目)		—	0	36	0		—		6	0	0	0	0	兼9	—	
発展科目		デザイン論	2	後		2		○								兼2
		データベース	2	後		2		○								兼1
		ネットワーク	2	前		2		○								兼1
		音楽情報処理	3	前		2		○			1					
		音声情報処理	3	前		2		○			1					
		画像情報処理	3	前		2		○			1					
		認知情報処理	3	前		2		○			1					
		感性情報処理	3	後		2		○			1					
		コンテンツテクノロジー	3	後		2		○			1					兼1
		コンピュータグラフィックス	3	後		2		○			1					
		バーチャルリアリティ	3	後		2		○			1					
		ロボティクス	3	前		2		○								不開講
		応用数学	3	後		2		○								不開講
小計(13科目)		—	0	26	0		—		7	0	0	0	0	兼3	—	
情報科学系科目		情報科学概論	1	前		2		○								兼11
		数理論理学	2	前		2		○								兼1
		デジタル信号処理	2	後		2		○								兼1
		グラフ・ネットワーク理論	2	後		2		○								兼1
		形式言語とオートマトン	2	後		2		○			1					
		計算論	3	前		2		○								兼1
		符号理論	3	前		2		○								兼1
		オペレーティングシステム	3	前		2		○								兼1
		コンパイラ	3	前		2		○								兼1
		最適化理論	3	前		2		○								兼1
		知識情報処理	3	前		2		○								兼1
		デジタル通信	3	後		2		○								兼1
		モデリング物理学	3	前		2		○								兼1
		計算幾何学	3	前		2		○								兼1
		数値計算	3	後		2		○								兼1
		ソフトウェア工学	3	後		2		○								兼1
		データマイニング	3	前		2		○								兼1
ネットワークコンピューティング	3	後		2		○								兼1		
暗号と情報セキュリティ	3	後		2		○								兼1		
ネットワーク設計論	3	後		2		○								兼1		
小計(20科目)		—	0	40	0		—		1	0	0	0	0	兼12	—	

様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(理工学部 人間システム工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育 科目	基礎物理学A	1 前		2		○									兼1
	基礎物理学B	1 後		2		○									兼1
	生命科学Ⅰ	1 前		2		○									兼1
	生命科学Ⅱ	1 後		2		○									兼1
	情報化社会と人間	1 後		2		○									兼1
	メディア社会論	1 前		2		○									兼1
	デモンストレーション物理学Ⅰ	1 後		2		○									兼1
	海外理工学プログラムA	1 前		1		○									兼2 集中
	海外理工学プログラムB	1 前後		2		○									兼5 集中
	海外理工学プログラムC	1 前		3		○									集中 不開講
	理工学特別プログラム001	1 前		1		○									集中 不開講
	理工学特別プログラム002	1 前		2		○									兼1 集中
	理工学特別プログラム004	1 後		4		○									兼1 集中 不開講
	基礎物理学実験Ⅰ	2 前		2				○							兼2
	デモンストレーション物理学Ⅱ	2 前		2		○									兼1
	科学技術英語A	3 前		2				○							兼7
	科学技術英語B	3 後		2				○							兼5
	特別英語セミナー	3 前		2					○						兼10 集中
	確率統計Ⅰ	3 前		2		○									兼1
	アーカイブ・デザイン	3 前		2		○									兼1
	知的財産戦略論	3 前		2		○									兼1
	サイバースペースの法と倫理	3 後		2		○									兼5
	コンピュータ・アート	3 前		2		○									兼1
小計 (23科目)		—	0	47	0	—			0	0	0	0	0	0	兼41
合計 (155科目)		—	46	226	0	—			11	0	0	0	0	0	兼86
学位又は称号	学士 (工学)		学位又は学科の分野			工学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
卒業必要単位数128単位を以下の(1)(2)の要件を満たして履修する。 (1)総合教育科目から32単位以上を修得する。(ただし、キリスト教科目4単位、英語教育科目12単位を含む。) (2)専門教育科目から以下の①から⑤の要件を満たした上で、合計96単位以上を修得する。 ①必修科目から32単位を修得する。 (ただし、(*1)、(*2)、(*3)はそれぞれいずれか一方を履修。) ②人間システム工学実習・実験科目及び情報科学実習科目から6単位以上を修得する。 (うち4単位は人間システム工学実習・実験科目。) ③基礎科目から24単位以上を修得する。 ④発展科目及び情報科学系科目から20単位以上を修得する。 (うち12単位は発展科目。) ⑤専門選択科目、卒業必要単位数を超えて修得した人間システム工学実習・実験科目、情報科学実習科目、基礎科目、発展科目、情報科学系科目及び理工学部開講専門教育科目から14単位以上を修得する。 なお、各学年及び学期の履修単位数制限は、1年前期23後期25、2年前期25後期23、3年前期24後期25、4年前期24後期25単位とする。						1 学年の学期区分			2学期						
						1 学期の授業期間			15週						
						1 時限の授業時間			90分						



授 業 科 目 の 概 要			
(建築学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 教育 科目	キリスト教学A	本講義の目的は、本学の建学の精神・スクールモットーを理解し、その理想の根底にあるキリスト教について基本的知識を修得することにある。特に、関西学院の歴史、キリスト教をはじめ宗教を学ぶ意義、聖書、イエス・キリストの生涯と教え、キリスト教の文化、キリスト教史の概略と今日におけるキリスト教の姿についての知識について説明する。これらを通じて初歩的な宗教に関する知識、人間の営みとしての宗教を客観的に認識・考察できる能力、「聖書」という書物の基本的性格、「キリスト教」の成立と歴史及び現代におけるキリスト教の世界的広がり、キリスト教の文化の特徴を身につける。	
	キリスト教学B	本講義の目的は、日本における「宗教」と日本史におけるキリスト教の意義、現代のキリスト教者の社会的貢献及びキリスト教の文化、聖書が示す世界観・人間観・死生観・他者との関係について修得することである。また、学ぶ事柄を手がかりとして自らの信念や価値観を問い直し、世界と他者に対する関心、倫理観の理解を深める。講義では、キリスト教を例に、宗教をもつことと「何かを信じること」の意義、キリスト教の基本的な世界観、人間観、死生観に対する考え方、キリスト教の価値観について説明する。	
英語 教育 科目	英語リーディング IA	正確に読むことを中心にして、学術研究のための総合的な基礎英語の修得を目指す。特に、英語の速読と精読の両方を適切に行えるようにすることを目指す。教材としては、身近な諸方面の話題を扱った現代英語の教材を使用する。同時に、視聴覚教材等も活用することによって、読解力を中心としつつ、幅広い英語の基礎力を養成することを目標とする。リーディング力の基盤となる語彙力についても強化する活動を行う。またグループワークやペアワークを中心に学生同士のインタラクションを通じて教材の理解を深める。	
	英語リーディング IB	「英語リーディング IA」に引き続き、正確に読むことを中心にして、学術研究のための総合的な基礎英語の修得を目指す。特に、英語の速読と精読の両方を適切に行えるようにすることを目指す。教材としては、身近な諸方面の話題を扱った現代英語の教材を使用する。同時に、視聴覚教材等も活用することによって、読解力を中心としつつ、幅広い英語の基礎力をさらに増強することを目標とする。「英語リーディング IA」と同様にリーディング力の基盤となる語彙力を強化する活動も行う。またグループワークやペアワークを中心に学生同士のインタラクションを通じて教材の理解を深める。	
	英語ライティング IA	正確にまた流暢に書くことを中心にして、学術研究のための総合的な基礎英語の修得を目指す。特に、英語を使って文章で自己を表現できるようにすることを目指す。また視聴覚教材等も活用することによって英語の語彙力、文法力、構文力を修得するための基礎学力を養成することを目標とする。またグループワークやペアワークを通してピアエディティングの方法を学びながら、学生同士が互いの英文を確認するなど、アクティブラーニングの要素も取り入れる。	
	英語ライティング IB	「英語ライティング IA」に引き続き、正確にまた流暢に英語を書くことを中心にして、学術研究のための総合的な基礎英語の修得を目指す。特に、英語を使って文章で自己を表現できるようにすることを目指す。また視聴覚教材等も活用することによって英語の語彙力、文法力、構文力を修得するための基礎訓練と同時に、特定のテーマをもとにした自由英作文等の練習も行う。またグループワークやペアワークを通してピアエディティングの方法を学びながら、学生同士が互いの英文を確認するなど、アクティブラーニングの要素も取り入れる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(建築学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 教育 科目	英語教育 科目		
	英語コミュニケーションⅠA	英語によるコミュニケーションの基礎力の修得を目指す。正しく話し、聞くための訓練を中心として、学術研究のための総合的な英語コミュニケーションの基礎力を修得することを目標とする。視聴覚教材と視聴覚機器も駆使し、様々な情報を得て、それらについて自分の考えをまとめ、口頭で可能な限り流暢に伝達する能力の育成を目標とする。またグループワークやペアワークを通して発話練習をしたり、グループやペアによるプレゼンテーションも行う。	
	英語コミュニケーションⅠB	「英語コミュニケーションⅠA」に引き続き、英語によるコミュニケーションの基礎力の修得を目指す。正しく話し、聞くための訓練を中心として、学術研究のための総合的な英語コミュニケーションの基礎力を修得することを目標とする。視聴覚教材、視聴覚機器も駆使し、英語コミュニケーションの基礎力及び、自己発信能力をさらに育成することを目標とする。またグループワークやペアワークを通して発話練習をしたり、グループやペアによるプレゼンテーションも行う。	
	英語リーディングⅡA	「英語リーディングⅠA」、「英語リーディングⅠB」に引き続いて、専門分野の学修において必要となる原書を読むための速読力及び精読力の養成を目指す。「英語リーディングⅠA」、「英語リーディングⅠB」で養った基礎力を土台にして、高い応用力の養成を目標とする。教材としては、科学の分野等について現代英語で書かれたもの等、幅広い内容のものを扱う。また、「英語リーディングⅠA」、「英語リーディングⅠB」と同様に、視聴覚教材等も活用することによって、読解力を中心としつつ、幅広い英語の応用力を養成することを目標とする。1年次でのリーディング科目に引き続き語彙力増強のための活動を行う。またグループワークやペアワークを中心に学生同士のインタラクションを通じて教材の理解を深める。	
	英語リーディングⅡB	「英語リーディングⅡA」に引き続いて、専門分野の学修において必要となる原書を読むための速読力、精読力の養成を目指す。これまでの英語リーディング科目で養った基礎力を土台にして、高い応用力の養成を目標とする。教材としては、科学の分野等について現代英語で書かれたものを中心に、幅広い内容のものを扱う。また、視聴覚教材等も活用することによって、読解力を中心としつつ、より高度で幅広い英語の応用力を養成することを目標とする。これまでの英語リーディング科目に引き続き語彙力増強のための活動を行う。またグループワークやペアワークを中心に学生同士のインタラクションを通じて教材の理解を深める。	
	英語ライティングⅡA	「英語ライティングⅠA」、「英語ライティングⅠB」に引き続いて、正確にまた流暢に書くことを中心にして、学術研究のための総合的な英語の応用力の育成を目指す。特に、「英語ライティングⅠA」、「英語ライティングⅠB」で身に付けた表現のための基礎力を土台にして、専門分野を扱ったテーマのもとで自己を表現できるようにすることを目標とする。「英語ライティングⅠA」、「英語ライティングⅠB」に引き続いて、視聴覚機器等も利用し、様々な情報を得て、それらについて自分の考えを文章で表現する能力を養う。同時に、自然科学の諸分野のテーマをもとにした自由作文等も行う。またグループワークやペアワークを通してピアエディティングの方法を学びながら、学生同士が互いの英文を確認するなど、アクティブラーニングの要素も取り入れる。	
	英語ライティングⅡB	「英語ライティングⅡA」に引き続いて、正確にまた流暢に書くことを中心にして、学術研究のための総合的な英語の応用力の育成を目指す。特に、これまでの英語ライティング科目で身につけた表現のための基礎力を土台にして、専門分野を扱ったテーマのもとで自己を表現できるようにすることを目標とする。最新の視聴覚機器等を利用し、様々な情報を得て、それらについて自分の考えを文章で表現する能力を養う。同時に、自然科学の諸分野のテーマをもとに、より高度な自由作文等も行う。またグループワークやペアワークを通してピアエディティングの方法を学びながら、学生同士が互いの英文を確認するなど、アクティブラーニングの要素も取り入れる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(建築学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 教育 科目	英語コミュニケーションⅡA	「英語コミュニケーションⅠA」、「英語コミュニケーションⅠB」に引き続いて、英語によるコミュニケーションのための応用力を養成することを旨とする。「英語コミュニケーションⅠA」、「英語コミュニケーションⅠB」で養ったコミュニケーションのための英語の基礎力をもとに、さらに正しく、効果的にコミュニケーションを図るための訓練を行う。「英語コミュニケーションⅠA」、「英語コミュニケーションⅠB」と同様、視聴覚教材と視聴覚機器も駆使し、より精度の高い情報収集・情報分析に基づき英語コミュニケーション能力を育成する。またグループワークやペアワークを通して発話練習をしたり、グループやペアによるプレゼンテーションも行う。	
	英語コミュニケーションⅡB	「英語コミュニケーションⅡA」に引き続いて、英語によるコミュニケーションのための応用力を養成することを旨とする。これまでの英語コミュニケーション科目で養ったコミュニケーションのための英語の基礎力をもとに、さらに正しく、効果的にコミュニケーションを図るための訓練を行う。視聴覚教材と視聴覚機器も駆使し、さらに高度な情報収集・情報分析に基づき英語コミュニケーション能力を育成する。またグループワークやペアワークを通して発話練習をしたり、グループやペアによるプレゼンテーションも行う。	
総合 選 択 科 目	フランス語Ⅰ	<p>(概要)日本人担当者は初級文法について、フランス人担当者はフランス語によるコミュニケーションについて、それぞれ週1回授業を行う。履修者がフランス語の初級文法を理解し、それをコミュニケーションの中で使えるようになることを目的とする。本科目の目標は、履修者がやさしいフランス語で書かれた文を理解できるようになること、日常生活の中で使用頻度の高い表現をフランス語で言えるようになることである。「フランス語Ⅱ」、「フランス語Ⅲ」、「フランス語Ⅳ」と履修を続けることが望ましい。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(31 安達 博明/14回) フランス語の初級文法について授業を行う。</p> <p>(42 富本 ジャニナ/14回) フランス語によるコミュニケーションに関する授業を行う。</p>	オムニバス方式
	フランス語Ⅱ	<p>(概要)日本人担当者は初級文法について、フランス人担当者はフランス語によるコミュニケーションについて、それぞれ週1回授業を行う。「フランス語Ⅰ」で培われた能力をもとにして履修者がフランス語の初級文法をよく理解し、それをコミュニケーションの中で使えるようになることを目的とする。本科目の目標は、履修者がやさしいフランス語で書かれた文を理解できるようになること、日常生活の中で使用頻度の高い表現をフランス語で言えるようになることである。「フランス語Ⅲ」、「フランス語Ⅳ」と履修を続けることが望ましい。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(31 安達 博明/14回) フランス語の初級文法について授業を行う。</p> <p>(42 富本 ジャニナ/14回) フランス語によるコミュニケーションに関する授業を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(建築学部 建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合 教育 科目	総合 選択 科目	ドイツ語Ⅰ	<p>(概要) 本科目は、コミュニケーション・メソッドに基づいた、ネイティブと日本人の講師のペアによる授業である。原則的に授業はドイツ語中心で行うが、文法説明、問題練習、授業内容の質問など、英語・日本語でもサポートする。履修生がドイツ語の初歩のコミュニケーション能力（話す・書く・読む・聞く）を身につけることを目的とする。本授業では、受講生が日常生活に必要なドイツ語での初歩のコミュニケーション（話す・書く・読む・聞く）ができるようになることを到達目標とする。(CEFRレベルA1)</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(45 堀 郁/14回) ドイツ語に関する初級文法の授業を行う。</p> <p>(37 Steiner Wolfgang/14回) ドイツ語によるコミュニケーションに関する授業を行う。</p>	オムニバス方式
		ドイツ語Ⅱ	<p>(概要) 「ドイツ語Ⅰ」に引き続き本科目は、コミュニケーション・メソッドに基づいた、ネイティブと日本人の講師のペアによる授業である。原則的に授業はドイツ語中心で行う。ただし、文法説明、問題練習、授業内容の質問など、英語・日本語でもサポートする。本授業の目的は、受講生がドイツ語の初歩のコミュニケーション能力（話す・書く・読む・聞く）を身につけることである。「ドイツ語Ⅰ」とあわせて、日常生活における、実用的、総合的なドイツ語コミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く、基本単語の運用、ドイツ語文化圏に関する知識）の初歩的なレベルへの到達を目指す(CEFRレベルA1)。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(45 堀 郁/14回) ドイツ語に関する初級文法の授業を行う。</p> <p>(37 Steiner Wolfgang/14回) ドイツ語によるコミュニケーションに関する授業を行う。</p>	オムニバス方式
		スペイン語Ⅰ	<p>(概要) 本科目は、週2回の授業のうち、1回は文法を学び（主な使用言語は日本語）、もう1回は学習した文法事項を使って会話練習をする（主な使用言語はスペイン語）。会話担当の教員はスペイン語を第一言語とする話者とする。授業の目標は、学生がスペイン語の初級文法を学習し、口頭練習など実践的な練習を通じてスペイン語力の基礎を身につけることである。同時にスペインとラテンアメリカの社会・文化事情を理解することも目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(21 禪野 美帆/14回) スペイン語の初級文法について授業を行う。</p> <p>(28 Roger Civit/14回) 学習した文法事項を使った会話練習の授業を行う。</p>	オムニバス方式
		スペイン語Ⅱ	<p>(概要) 本科目は、週2回の授業のうち、1回は文法を学び（主な使用言語は日本語）、もう1回は学習した文法事項を使って会話練習をする（主な使用言語はスペイン語）。学生が、「スペイン語Ⅰ」で得た知識を使いながら、さらにスペイン語で日常的な表現を直接法現在形でできることがこの授業の目的である。学生が、存在と所在の表現を使い分ける、現在の日常生活について質疑応答ができる、天候の表現ができる、スペインおよびラテンアメリカの文化・社会事情に対する理解を深めることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(21 禪野 美帆/14回) スペイン語の初級文法について授業を行う。</p> <p>(28 Roger Civit/14回) 学習した文法事項を使った会話練習の授業を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(建築学部 建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合 教育 科目	総合 選択 科目	中国語Ⅰ	<p>(概要) 本科目は、週2回の授業を、中国語話者教員(1回)と日本語話者教員(1回)が担当する。読み、書き、聞き、話す練習を通して、基本的な中国語表現の修得を目指す。中国語の発音を身に付けること、また、教科書(『いつでも中国語1-随時随地学漢語-』)第1課から第5課の語彙、文型を把握し、簡単な文を作ることができることを目標とし、授業では随時小テストをおこなう。授業内容は、発音編と対話編からなり、発音編では、声調、単母音、複合母音、子音を学び、対話編では、教科書に沿って、第1課から第5課までの内容を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(34 久下 景子/14回) 中国語の文法の授業を行う。</p> <p>(41 沈 慧敏/14回) 学習した文法事項を使った読む・書く・聞く・話すの練習の授業を行う。</p>	オムニバス方式
		中国語Ⅱ	<p>(概要) 本科目は、週2回の授業を、中国語話者教員(1回)と日本語話者教員(1回)が担当する。学生が、読み、書き、聞き、話す練習を通して、基本的な中国語表現の修得を目指す。正確に発音し、教科書(『いつでも中国語1-随時随地学漢語-』)第6課から第10課の語彙、文型を把握し、簡単な文を作ることができることを目標とし、授業では随時小テストをおこなう。授業内容は、教科書第5課までの復習を行った後、第6課対話から第10課対話の授業を各4回ずつ行い、さらに各課ごとにまとめの回を1回設ける。最後に総復習の授業を2回行う。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(34 久下 景子/14回) 中国語の文法の授業を行う。</p> <p>(41 沈 慧敏/14回) 学習した文法事項を使った読む・書く・聞く・話すの練習の授業を行う。</p>	オムニバス方式
		フランス語Ⅲ	<p>(概要) 日本人担当者は主に読解について、フランス人担当者はフランス語によるコミュニケーションについてそれぞれ週1回授業を行う。「フランス語Ⅱ」に引き続き、残りの文法事項を消化して初級文法の学習を終えることを目標とする。また、短い文章を読む練習も少しずつ行い、初級文法の全体像が見渡せるようになること、辞書と文法書があれば独習も可能となるような力を身につけることを目指す。引き続き「フランス語Ⅳ」を履修することが望ましい。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(31 安達 博明/14回) 主にフランス語の読解に関する授業を行う。</p> <p>(42 富本 ジャニナ/14回) フランス語によるコミュニケーションの授業を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(建築学部 建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合 教育 科目	総合 選択 科目	フランス語Ⅳ	<p>(概要) 本科目は、日本人担当者は主に読解について、フランス人担当者はフランス語によるコミュニケーションについてそれぞれ週1回授業を行う。「フランス語Ⅰ」、「フランス語Ⅱ」、「フランス語Ⅲ」で学んだ内容を基礎に、やや高度な読解や口頭でのやり取りを通してフランス語への理解を深めることと、初級文法の知識を充実させつつ、フランス語のさらに高度な運用能力を身につけることを目指す。授業はテキストの内容に沿って実施する。また、適宜補助教材を用意して知識の定着を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(31 安達 博明/14回) 主にフランス語の読解に関する授業を行う。</p> <p>(42 富本 ジャニナ/14回) フランス語によるコミュニケーションの授業を行う。</p>	オムニバス方式
		ドイツ語Ⅲ	<p>(概要) 本授業の目的は、受講生がドイツ語の初歩のコミュニケーション能力(話す・書く・読む・聞く)を身につけることである。コミュニケーション・メソッドに基づいた、ネイティブと日本人の講師のペアによる授業である。原則的に授業はドイツ語中心で行うが、文法説明、問題練習、授業内容の質問など、英語・日本語でもサポートする。この科目では、「ドイツ語Ⅰ」、「ドイツ語Ⅱ」で学んだドイツ語の基礎能力を、さらに確実に運用できるように学習していく。また、いままでに学んだドイツ語基礎能力を生かし、現代ドイツの文化・社会・時事問題などを、授業の話題に積極的に取り上げることによって、ドイツ、ヨーロッパへの異文化理解も深める。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(45 堀 郁/14回) ドイツ語に関する文法の授業を行う。</p> <p>(37 Steiner Wolfgang/14回) ドイツ語によるコミュニケーションに関する授業を行う。</p>	オムニバス方式
		ドイツ語Ⅳ	<p>(概要) 本科目は、コミュニケーション・メソッドに基づいた、ネイティブと日本人の講師のペアによる授業形式で、「ドイツ語Ⅰ」、「ドイツ語Ⅱ」、「ドイツ語Ⅲ」で学んだドイツ語の基礎能力を、さらに確実に運用できるように学習していく。本授業の目的は、受講生がドイツ語の初歩のコミュニケーション能力(話す・書く・読む・聞く)を身につけることである。教科書にそった授業と同時に、いままでに学んだドイツ語基礎能力を生かし、現代ドイツの文化・社会・時事問題などを、授業の話題に積極的にとりあげることによって、ドイツ、ヨーロッパへの異文化理解を深めていく。最終的には、欧州評議会の定めた欧州語学力評価基準におけるA1レベルの到達、具体的には、ゲーテ・インスティテュートのStart Deutsch 1 (SD1) の合格を目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(45 堀 郁/14回) ドイツ語に関する文法の授業を行う。</p> <p>(37 Steiner Wolfgang/14回) ドイツ語によるコミュニケーションに関する授業を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(建築学部 建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合 教育 科目	総合 選択 科目	スペイン語Ⅲ	<p>(概要) 本科目は、週2回の授業のうち、1回は文法を学び（主な使用言語は日本語）、もう1回は学習した文法事項を使って会話練習をする（主な使用言語はスペイン語）。学生が、「スペイン語Ⅰ」、「スペイン語Ⅱ」で学習した内容を応用しながら、より難易度の高い文法事項、特に再帰動詞と現在完了を使用し、実践的な練習をすることがこの授業の目的である。同時にスペインとラテンアメリカの社会・文化事情への理解をさらに深める。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(21 禪野 美帆/14回) スペイン語の文法について授業を行う。</p> <p>(28 Roger Civit/14回) 学習した文法事項を使った会話練習の授業を行う。</p>	オムニバス方式
		スペイン語Ⅳ	<p>(概要) 本科目は、週2回の授業のうち、1回は文法を学び（主な使用言語は日本語）、もう1回は学習した文法事項を使って会話練習をする（主な使用言語はスペイン語）。学生が、さらに難易度の高い文法事項、特に過去形と未来形を実践的に学ぶことがこの授業の目的である。同時にスペインとラテンアメリカの社会・文化事情への理解をさらに深める。本科目では、過去の出来事について質疑応答できる、未来の出来事について質疑応答できる、誰かに何かを依頼できる、スペインおよびラテンアメリカについてスペイン語で説明したり会話ができることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(21 禪野 美帆/14回) スペイン語の文法について授業を行う。</p> <p>(28 Roger Civit/14回) 学習した文法事項を使った会話練習の授業を行う。</p>	オムニバス方式
		中国語Ⅲ	<p>(概要) 本科目は、週2回の授業を、中国語話者教員（1回）と日本語話者教員（1回）が担当する。読み、書き、聞き、話す練習を通して、基本的な中国語表現の修得を目指す。中国語を正確に発音し、教科書（『いつでも中国語2-随時随地学漢語-』）第1課～第5課の語彙、文型を把握し、簡単な文を作ることができることを目標とし、授業では随時小テストを行う。授業内容は、「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」の復習を行った後、第1課対話から第5課対話の授業を各4回ずつ行い、さらに各課ごとにまとめの回を1回設ける。最後に総復習の授業を2回行う。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(34 久下 景子/14回) 中国語の文法の授業を行う。</p> <p>(41 沈 慧敏/14回) 学習した文法事項を使った読む・書く・聞く・話すの練習の授業を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(建築学部 建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合 教育 科目	総合 選択 科目	中国語Ⅳ	<p>(概要)本科目は、週2回の授業を、中国語話者教員(1回)と日本語話者教員(1回)が担当する。読み、書き、聞き、話す練習を通して、基本的な中国語表現の修得を目指す。教科書(『いつでも中国語2-随時随地学漢語-』)第6課～第10課の語彙、文型を把握し、基本文型を運用して会話ができることや、読解力をつけることを目標とし、授業では随時小テストを行う。授業内容は、「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」の復習を行った後、第6課対話から第10課対話の授業を各4回ずつ行い、さらに各課ごとにまとめの回を1回設ける。最後に総復習の授業を2回行う。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(34 久下 景子/14回) 中国語の文法の授業を行う。</p> <p>(41 沈 慧敏/14回) 学習した文法事項を使った読む・書く・聞く・話すの練習の授業を行う。</p>	オムニバス方式
		哲学概論	<p>本講義は「哲学」の主要な諸テーマや問題を学ぶことによって、「哲学的思考」の特徴や意義を理解することを目的とする。本講義の主な内容は、(1)古代ギリシアから現代までの主要な哲学の諸テーマ・問題、(2)各時代の哲学者が、自らが直面した哲学的課題をどのように受け止め、どのように考えたのか、(3)哲学的思考の特徴と意義である。具体的には、カント、デカルト、プラトン、ヒューム、ホッブズ、ルソー、ロック、サルトルらの思考を取り上げる。</p>	
		心理学概論	<p>本講義は「心」を対象とする「科学」としての心理学の知見に幅広くふれることで、慎重な調査や実験により蓄積された「事実」を知る方法論を学ぶことを目的とする。本講義の主な内容は、(1)心理学の知見の背景にある科学的方法論、(2)日常生活の中での心理的事象に対する考察、(3)情動と動機づけである。授業では、クリティカルシンキング、知覚心理学、認知心理学、学習心理学、思考心理学、教育心理学、発達心理学、動機づけ心理学、環状心理学などのテーマについて講義する。</p>	
		論理学	<p>本講義は、論理学の初歩、あるいはクリティカル・シンキングを学ぶことを目的とする。実際の文章の論理的内容を把握できるようになること、そしてそれについての的確な批判ができるようになることを目標とし、接続表現と論証、論証の構造、論証のさまざまな種類、論証の正しさ、結論の導出の正しさ、論証のさまざまな種類、演繹の論証、帰納の論証、アナロジー、統計的推論、因果関係についての論証、正しい反論の仕方などの内容について講義する。</p>	
		日本国憲法	<p>本講義は、日本国憲法の全体像を理解すること、特にその背景にある歴史や理念を学び、そこから現実の問題を考えてみる力と態度を養うことを目的とする。講義内容は、日本国憲法の制定と特色、人権の歴史と体系、天皇制と人権、ネット社会と人権、過労死と人権、国民に主権があるとはどういうことか、国民主権と選挙制度、統治機構の基本的考え方、違憲審査制、憲法9条の制定と解釈、戦後政治と憲法9条、平和主義の現実、憲法改正論議の行方などである。</p>	
		地理学概論	<p>本講義では、グローバル化という事象を人文地理学的に理解することで、地理学という学問の基本的な考え方を学び、修得することを第一の目的とする。グローバル化とは時空圧縮が著しく進み世界が小さくなることであるが、これはきわめて地理的な主題であり、グローバル化を理解する上で地理的な視角は非常に重要となる。主な内容は、グローバル化が進む現代社会において、人口や経済、農業、あるいは人々の意識やアイデンティティなどにどのような変化が生じているのかを地理的・空間的に検討していくことであり、身近な京阪神地域の地理にも適宜触れながら授業を展開する。</p>	



授 業 科 目 の 概 要				
(建築学部 建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合 教育 科目	総合 選択 科目	メディア社会論	本講義は、メディアと社会の相互作用に関する社会学的知見について学ぶことを目的とし、マス・メディアに関する基礎的研究、インターネットが社会に与える影響、社会とメディアが相互作用する仕組みなどをテーマとする。主な講義内容は、メディアの発展段階と歴史、近代化とメディア、パブリックリレーションズ、プロパガンダ、マス・メディアと効果研究、選挙とマス・メディア、ネット時代の新聞とジャーナリズム、フェイクニュース、個人化する社会のメディア、ネットワークメディアなどである。	
		芸術学概論	本講義は、芸術を単に「楽しむ」こととは異なる、芸術を「学ぶ」ということについて基礎的な理解を得ることを目的とする。講義では、芸術は（いかにして）定義可能か？、芸術はどのように分類されるか？、芸術は（いかにして）翻訳可能か？、芸術作品の解釈に際して「作者の意図」をどの程度・どのように考慮すべきか？などを主なテーマとし、学生が芸術をめぐるさまざまな問題について、論理的に考えることができるようになることを目標とする。	
		環境倫理	本講義は、現代社会が抱える環境問題を理解し、それに対する様々な学問的立場からアプローチすることを通して、環境問題を倫理的に分析、批判、考察する能力を高めることを目的とし、学生が環境倫理の基本的知識を理解、修得し、この分野の文献を批判的に読めるようになることを目指す。講義内容は、自然再考、自然の権利、環境倫理学の思想的展開と問題、技術の問題、世代間倫理、動物倫理、生命と環境、21世紀の環境倫理などである。	
		日本史概説	本講義は、日本史（主に室町～戦国期）における都市社会や都市文化の学習を通して、日本の都市発展の特徴を歴史的に理解することを目的とする。主な講義内容は、「都市」の定義、室町幕府の成立過程について、中世都市の社会と文化（「館」の文化と「小京都」の発展など）、中世京都の様相（応仁の乱以前の京都の都市構造）、中世京都の変容（応仁の乱以後の京都の都市構造）、城下町の都市構造（城下町の類型と構造的特徴など）、日本における都市発展の類型と特徴である。	
		西洋史概説	本講義は、近現代ヨーロッパ（フランス）の歴史をさまざまなトピックに分けて学ぶことにより、フランス社会における多様な問題が、19世紀から現代へと、どのように受け継がれていったのかを考えることを目的とする。講義では、教育、家族、宗教、移民、言語、政治、植民地、科学などの歴史をテーマとし、また、ヨーロッパの事例だけでなく、日本の歴史との比較と関連性の解明も行うことにより、ヨーロッパの歴史と日本の歴史において異なる点と共通する点とを明らかにしながら、近現代の歴史についてグローバルに学ぶ。	
		東洋史概説	本講義は、紀元前3千年紀から前1千年紀の古代近東の歴史を理解することを目的とし、文明の成立と国家の形成、国家の興亡の歴史を概説する。その歴史を理解することは、聖書の世界やその後のイスラーム世界を理解する上でも重要である。主な講義内容は、古代文明の「発見」、文明の成立と都市国家、初期王朝時代・アッカド王朝・ウル第三王朝、アッシリア商人の活動、国際化の時代、アッシリア帝国、新バビロニア帝国、アケメネス朝ペルシア、楔形文字の世界などである。	

授 業 科 目 の 概 要				
(建築学部 建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合 教育科目	総合 選択 科目	民族と文化	本講義は、人間の社会生活と文化について諸学問分野の方法と学説等を理解しつつ、日本を含む世界各地に暮らす諸民族の生活文化について客観的・科学的にとらえることを目的とする。講義担当者がアフリカ大陸、南アジア（特にネパール）等で実施した文化人類学的フィールドワークで得た具体的な事例をベースとし、人種と民族、民族問題、文化の定義と解釈、人類の基本的な生業形態、水辺の暮らし、世界の秘密結社、里山論などのテーマを講義する。	
		地誌学	本講義は、「地形図」を題材として地域の総合的な把握ができるようになることを目的とする。具体的には、新旧地形図の比較から地域の変化を読み取り、変化が生じた理由についても考える。地誌学とは「地域」を総合的に把握するための学問であり、地形図（一般図）には、耕地、住宅地、コンビナートなど近代における開発の歴史が刻み込まれている。講義では本学の所在する兵庫県の地図を中心に授業を進め、そのほかにも興味深い全国各地の事例を紹介する。	
		科学倫理	本講義は次の3点を目的とする。(1) この科目では、自然環境倫理・情報倫理・生命倫理・技術者倫理の4分野について、具体的な問題を挙げて検討すること。(2) 倫理の問題には正解がなく、多様な意見が存在することを理解すること。(3) 授業で取り扱った諸問題を踏まえて、今後新たな問題に接した時に対応する姿勢を身につけること。主な講義内容は、科学倫理の必要性、環境問題のスケールと限界、環境問題と科学技術の関係、インターネット環境を踏まえた「専門家」「非専門家」の問題、法律と技術の関係、著作権と電子メディアとの関係などである。	
		美学概論	本講義は、美や芸術、感性について論理的に考えたり書いたりする能力を、先人たちの思想を参照しつつ、身につけることを目的とし、学生が実際に美や芸術、完成について論理的に考えたり書いたりできるようにすることを目標とする。講義で取り上げる主なテーマは、プラトン『国家』、アリストテレス『詩学』、バウムガルテン『美学』、カント『判断力批判』、ヘーゲル『美学講義』などである。	
		アート&テクノロジー	本講義は、アートとテクノロジー（芸術と技術）の関係を学び、社会における芸術の役割についての基礎知識を修得することを目的とする。講義内容としては、昨今、ビジネスエリート向け「アート」に関する本が多く出版されるようになり、海外では、ビジネススクールより、アートスクールで学ぶ動きさえあるという時代背景の中、美術史、写真史、フォトジャーナリズム史を、社会、政治、経済、テクノロジーと深く関係するリベラルアーツとして紹介する。	
		比較宗教思想論	本講義は、(1) 現代世界を読み解く上で必要な「宗教」に関わる基本事項と世界各地の文化の基盤をなす主要な宗教的思想を横断的に学ぶこと、(2) 世界の人々の文化・諸価値を支えている宗教の機能と意義、多様性と共通性を理解すること、(3) 宗教・文化の観点から人間と共生の課題を考えることを目的とする。講義内容は、現代における宗教、歴史的視点から見た宗教、神道の信仰、仏教の信仰、儒教の信仰、道教の信仰、ヒンドゥー教の信仰、ジャイナ教/シク教の信仰、イスラム教の信仰、ユダヤ教の信仰、キリスト教の信仰などである。	
専門 教育科目	専門 科目 基礎	微積分学 I	この講義では、建築工学を扱う上で必要となる数学のうち、微分・積分の基礎について学ぶことを目的とする。専門分野で応用できるようになることを目標とし、数学的な論証より、具体的な問題を解けるようになることを重視し、基礎学力と計算力の強化を図る。本講義では1変数関数の微分積分とその応用を扱う。内容は高校数学の復習から始め、より高度な数学へと進めていく。毎回事前に配布するレジュメを予習して授業に臨むことを前提とし、講義内で理解できるようになることを重視する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(建築学部 建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	専門 科目 基礎	微積分学Ⅱ	この講義では、建築工学を扱う上で必要となる数学のうち、微分・積分の基礎について学ぶことを目的とする。専門分野で応用できるようになることを目標とし、数学的な論証より、具体的な問題を解けるようになることを重視し、基礎学力と計算力の強化を図る。本講義では、「微積分学Ⅰ」で学んだ1変数関数の微積分を発展させ、偏微分法、重積分、微分方程式を学ぶ。毎回事前に配布するレジュメを予習して授業に臨むことを前提とし、講義内で理解できるようになることを重視する。	
		線形代数学Ⅰ	本講義は、行列と行列式に関する基礎的知識と、それらを用いた連立一次方程式の解法、さらにベクトル空間と線形写像との関係について学ぶことを目的とする。講義内容は、行列、正方行列、正則行列、行列のブロック分割、掃き出し法、掃き出し法による逆行列の求め方、連立一次方程式の掃き出し法による解法、行列式、余因子と余因子行列、余因子展開、逆行列の求め方、連立一次方程式のクラメルによる解法、空間ベクトル・外積、ベクトル空間とその写像、部分ベクトル空間などである。	
		線形代数学Ⅱ	本講義は、「線形代数学Ⅰ」に引き続き、固有値・固有ベクトル、行列の対角化、内積と直交性、ベクトル空間（線形空間）、線形写像について学ぶことを目的とする。本講義の履修により線形代数の概念を理解すること、特に、固有値問題や対角化については具体的な計算ができるようになるだけでなく応用もできるようになることを目標とする。講義内容は、固有値問題と対角化、対角化可能条件、内積と正規直交系、対角行列の対角化、2次形式とその応用、部分ベクトル空間、基底と次元、線形写像、線形写像の表現行列、核と像、次元定理、基底のとりかえなどである。	
		統計学	本講義は、統計データを大学での学びや研究に活かすための、統計学の基礎知識を修得することを目的とする。講義内容は、基本統計量の意味と求め方、グラフによる表現、確率分布、ベルヌイ試行と二項分布、標準正規分布表の使い方、条件付き確率とベイズの定理、散布図と相関係数、回帰分析の考え方、重回帰分析の考え方、クロス集計表の作成と連関係数、ロス集計表における独立性の検定、オッズ比、残差の分析、統計的検定などである。	
		建築基礎物理	本講義の目的は、全ての自然科学の基礎となる物理学の学びの第一歩として古典力学を理解し、物理学的なものの考え方や数学的な方法論を身につけることである。講義内容は、運動の速度、運動の加速度、運動の法則、ニュートンの運動方程式、仕事、位置エネルギー、運動エネルギー、エネルギー保存則、単振動とニュートンの運動方程式、運動量とその保存則、剛体の運動（剛体の回転）、弾性体の静力学、弾性体の運動方程式（波動）、流体力学の基礎、熱と温度および熱力学第一法則、第二法則などである。	
		データ解析	本講義は、社会現象における問題の発見、状況の認識、問題の解決の際に必要な「データ解析」の方法について理解することを目的とする。講義内容は、量的／質的データのコーディング、データインプット、データ・チェック、変数ラベル・値ラベル、尺度水準、欠損値処理、度数分布表、基礎統計量（代表値：平均・分散・標準偏差）、ヒストグラム、散布図など図による表現、相関分析・因果分析、クロス集計・独立性の検定、推測統計学の基礎、母平均と標本平均、母分散と不偏分散、正規分布・区間推定、仮説検定、2群間の比較、最小二乗法などである。	

授 業 科 目 の 概 要			
(建築学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	総合 基礎 建築・都市 デザイン 専門 科目	<p>建築・都市デザイン概論</p> <p>(概要) 本講義の目標は、本学部に入學してきた学生が建築や都市に対する関心を一層深めるとともに、学問としての建築・都市領域の多様性と多層性に気付き、本学部でいったい何をどのように学ぶべきなのかを確認させることである。そのために、専任教員がそれぞれの専門分野の概要と魅力を平易な言葉と映像などによって紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(1 鬼丸 貞友・10 荒木 美香・13 金 容善/各1回) 「強くて美しい建築」をテーマに講義する。</p> <p>(3 清水 陽子・8 山崎 亮/各1回) 「都市に住まうことのデザイン」をテーマに講義する。</p> <p>(4 照本 清峰/1回) 「防災まちづくり」をテーマに講義する。</p> <p>(5 原 哲也・7 八木 康夫・9 米田 明/各1回) 「建築とは何か」をテーマに講義する。</p> <p>(6 松村 茂久/1回) 「アジアの都市開発」をテーマに講義する。</p> <p>(11 飯田 匡/1回) 「建築の中の環境、環境の中の建築」をテーマに講義する。</p> <p>(12 石樽 督和・15 山根 周/各1回) 「都市と建築がつくる歴史」をテーマに講義する。</p> <p>(16 柳 尚吾/1回) 「建築と都市の福祉」をテーマに講義する。</p>	オムニバス方式
	建築 設計	<p>建築表現演習 I</p> <p>本演習では、建築や都市・アーバンスケープにおけるデザインならびに設計を学ぶための基礎的な素養を養うため、デッサンと製図道具の基礎的な使い方および建築製図表現の基本を学ぶ。具体的には、1. 都市空間および建築空間の見方とその見た物のスケッチ作法修得、2. 線の描き方及び濃淡表現の修得、3. スケール感の修得、4. トレース技術の修得を目的とし、スケッチ表現・平面図・立面図・断面図等の作図表現ができるようになるための導入教育を行う。</p>	
		<p>建築表現演習 II</p> <p>本演習では、「建築表現演習 I」で修得した表現技法の発展として、自己の主張や空間構成の意図を他者に伝達するための表現手法のさらに高度な技能を修得することを目的とし、建築図面やドローイングへの理解を深め、それらを通じてプロポーションなど空間に対する意識を高めることを目標とする。具体的には、モデリングで建築エレメントの表現や完成系の表現手法を修得する。また、スケッチ・模型写真・CG等の用いたプレゼンテーション手法について学び、他者への提示に向け多様な表現ができることを目指す。</p>	
		<p>現代建築デザイン論</p> <p>本講義では、空間によって秩序付けられる建築空間形成の原理原則としての方位・重畳・布石等の主要なレイアウトコンテンツを修得し、建築と都市空間との関わりを学ぶことを目的とする。その具体的な建築空間構成については、20世紀以降の世界の建築家の作品を取り上げ、その時代背景や建築潮流の中で、どのようなコンセプトで建築空間を構成していったのか、またデザインの目の付けどころやそのデザインアイデアとして、特にデザイン文法・場所・コンテクスト・類型・パッシブデザインについて視覚資料を主体に講義を展開していく。</p>	

授 業 科 目 の 概 要					
(建築学部 建築学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 教 育 科 目	建 築 ・ 都 市 デ ザ イ ン 専 門 科 目	建 築 設 計	建築設計演習Ⅰ	本格的な設計演習の入口となる本演習の目的は、まず求められる機能と敷地状況を通してコンセプトの設定を行うことから始め、次にエスキスを繰り返し行っていくプロセスの中で最適なフォームを確定していく流れを修得することを目的とする。本演習では実際の設計として配置図・平面図・立面図・断面図・模型製作・プレゼンテーションという流れを把握し、また設計に必要な諸条件である、人物-物-空間の関係/立体造形/スケール/単位空間を理解し、制約条件の少ない小規模建築空間の設計が出来ることを目的とする。空間構成におけるキーワードは、造形・スケール・単位空間・外部空間とし、空間の規模としては100㎡～300㎡程度と設定する。	
			建築設計演習Ⅱ	本演習の目的は、「建築設計演習Ⅰ」において立体造形/スケール/単位空間の理解と外部環境（空間）の読取り等を修得した上で、設計に必要な諸条件に対してプログラム/コンセプト立案能力と基本的な建築表現能力を修得することを目的とする。本演習では、設計に必要な諸条件の考察と、表現と基礎基本設計の理解をした上で、プログラムとコンセプト立案を理解し、共有空間を含んだ基本設計が出来ることを目的とする。空間構成におけるキーワードは、プログラム/コンセプト立案・基礎基本設計造形とし、空間の規模としては300㎡～1000㎡程度と設定する。	
			建築設計手法論	現代の建築設計において目標とすべきは、技術・文化を踏まえる・未来へ向けたより良い環境形成であると考えられる。実際には、技術や文化を踏まえるには多岐にわたる様々な背景の統合が求められる。また未来へ向けたより良い環境形成では単なる過去の踏襲ではなく、常に更新していくダイナミクスが必要とされる。このような背景のもと人類が生き生きと暮らせる、動的なバランスをもった建築をどのように設計するかについてより多くの事例を提示しながら講義を展開していく。	
			建築設計演習Ⅲ	本演習の目的は、「建築設計演習Ⅱ」においてプログラム/コンセプト立案能力と基本的な建築表現能力を修得した上で、設計に必要な諸条件の考察と、表現と基礎基本設計の理解をした上で、プログラムとコンセプト立案を理解し、異なる機能が共存する空間のデザインとビルディングタイプごとの建築企画力とランドスケープデザイン力を修得することを目的とする。空間構成におけるキーワードは、ビルディングタイプ・プログラム立案・コンプレックス・ランドスケープデザインとし、空間の規模としては1000㎡～3000㎡程度と設定する。	
			建築設計演習Ⅳ	本演習の目的は、「建築設計演習Ⅲ」においてプログラムとコンセプト立案を理解し、異なる機能が共存する空間のデザインとビルディングタイプごとの建築企画力とランドスケープデザイン力を修得した上で、大規模空間における空間構成力を養い、さらに機能規模やビルディングタイプが異なるなどのコンプレックス構成からのメタレベルのコンセプト作成能力を修得することを目的とする。空間構成におけるキーワードは、機能規模・大規模空間構成・メタレベルコンセプトとし、空間の規模としては5000㎡～と設定する。	
			アーバンスケープデザイン論	本講義の目的は、近現代都市が呈するさまざまな様相＝アーバンスケープについて、その形成に影響を与えてきた多様な要因を理解することである。講義内容は、国内外の代表的な都市を取り上げ、それらの様相について地理的・歴史的・社会的コンテクストを読み解きながらその特性を探り、また都市を構成する個々の建築の持つ意味について考察する。建築群によって形成される都市の景観とその様相が、時代の変化とともに変容しながらも自らのアイデンティティを築き上げてきた要因について理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(建築学部 建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	建築設計	建築設計演習V	本演習では、建築設計学習の集大成としての卒業設計を見据えた自由課題として設計を行う。その場所の歴史背景やコンテクストを読み取り、そこからプログラムしていくことが出来る空間構成能力を修得することを目的とする。空間構成におけるキーワードは、学生自らが社会的背景からその問題意識を目的として、建築・都市表現として、その目的を明らかにし、最終表現としての、空間規模は自由設定する中で他者への提示に向け多様な表現ができることを目指す。	
	建築計画	建築計画A	本講義では、建築空間の構成と人間の知覚・行動・心理等との関わりを学び、建築を設計する上で必要不可欠な建築空間の計画理念、計画手法に関する基礎的知識を修得することを目的とし、すべてのビルディングタイプの計画に共通する建築計画の基礎と、住宅計画について学ぶ。内容は、建築計画の基礎として、人間の行動と空間、寸法とスケール、モジュールとモジュラー・コーディネーション、寸法計画、バリアフリーとユニバーサルデザイン、空間の計画などについて講義し、住宅計画として、近現代の住宅における建築計画、住宅の計画理念、集合住宅の計画などについて講義する。	
		建築計画B	本講義では、住宅を除いた各ビルディングタイプの建築計画に関する知識を修得することを目的とする。主として公共施設を対象とし、公共施設の持つべき基礎的機能を歴史的観点や社会的・文化的観点から理解し、各施設種別毎の配置計画、規模計画、動線計画等の建築計画の基本を学ぶ。内容は、各施設計画に共通して、施設立地と外部空間、施設の維持管理と改修・用途転用、ユニバーサルデザインと防災計画を学び、具体的施設として、展示系施設（博物館、美術館等）、教育系施設（学校、幼稚園、保育園等）、集会系施設（劇場、ホール等）の建築計画について講義する。	
		福祉環境計画	本講義では、ユニバーサルデザインに合致した建築計画、都市計画について理解することが目的である。講義内容は、バリアフリーやユニバーサルデザインなどの概念、障害の理解、人間の行動の特徴、人間の行動と空間、建築の用途と空間的特徴、空間別の人間の行動とバリアフリー計画手法などである。事例検討を通じて理解を深め、実際の建築設計、計画、制度検討などに応用できるようにする。福祉環境計画の現場でどのような検討がなされているのか、制度面（バリアフリー法、福祉のまちづくり条例など）や設計プロセスにおける考え方を講義することで、実務に対応できる人材を育てる。	
		建築・都市類型論	本講義では、建築設計、建築計画、都市デザインなどの基礎となる、建築空間、街区空間、都市空間の「型」について学び、その構成原理や構成手法に関する知識や視点を幅広く修得することを目的とする。講義では、さまざまな地域や時代における建築空間、街区空間、都市空間を対象とし、各地域や時代において読み取れる空間の型やその特徴について解説し、類型化する。またそれら空間構成原理について、生態環境、歴史、社会、文化、技術など、多様な視点から比較考察する。	
歴史	日本建築史	この授業では、日本で展開した建築と都市・集落について社会的・技術的背景を踏まえながら概観することで、日本の建築と都市・集落はどのようにつくられ、どのようなタイプが存在しているのか、またそれぞれの特徴はどのようなものかを理解し、同時に建築各部の名称や構法・建築技術の基礎を修得することを目標とする。講義は時代順に進める。まず、原始・古代の建築をテーマに、原始の住居、神社、寺院について議論し、さらに都市の誕生と都市住居を見ていく。中世では建築については、大仏様、禪宗様、密教建築、中世住居を概観し、都市については都市の私有化とともに町家について議論していく。近世では、茶室、数寄屋について見た上で、都市として城下町と武家住宅について扱う。現代につながる建築の根源的な部分を把握し、歴史的建築の保存再生や今後の建築・都市設計に対する素養を身につけることも目標とする。		

授 業 科 目 の 概 要					
(建築学部 建築学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 教 育 科 目	建 築 ・ 都 市 デ ザ イ ン 専 門 科 目	歴 史	西洋建築史	本講義では、先史・古代から18世紀までのヨーロッパ及び関連の深い周辺地域における建築・都市の歴史を概観する。それを通じて次の3つのことを修得することをこの授業の目標とする。(1) 先史古代から18世紀までの建築史・都市史の大きな流れを理解すること。(2) 主要な建築様式について、形式的特徴を読み取って説明できるようにすること。(3) 主要な建築様式の形成・確立・衰退・変形などのプロセスと要因を理解すること。また、現代につながる建築の根源的な部分を把握し、歴史的建築の保存再生や今後の建築・都市設計に対する素養を身につけることも目標とする。内容は、西洋建築の理解に必要な様式を時代を追って示していく通史を基本とするが、全体を通じて西洋中心主義を相対化する視点を欠かないようにする。	
		近代建築史	本講義では、産業化以降の欧米及び日本の建築の歴史を、「近代建築」成立の過程を中心に講じるが、授業全体を通じて西洋近代中心主義を相対化する視点も提示する。この授業の目標は、18世紀から19世紀にかけての産業化がもたらした技術的・社会的変化と建築における歴史主義の衰退過程を理解すること、モダン・ムーブメントの大きな流れと獲得された近代建築の諸概念を理解すること、日本における近代建築受容の特質について理解すること、近代建築の限界・問題点ならびに今日の建築の歴史的位置を理解することとする。内容は、産業革命が建築と都市にもたらしたものを確認し、歴史主義の衰退過程を概観しつつ次のようなテーマを扱う。すなわち、摩天楼、世紀初頭のアヴァンギャルド、工作連盟とバウハウス、ボザールとル・コルビュジエなどである。こうした議論をpushした上で、コロニアル建築と日本への近代建築の導入過程を見ていく。		
		アジア建築史	本講義では、アジア地域の建築および都市空間の形成史、様式史、技術史等についての知識を修得することを目的とする。日本建築史、西洋建築史とあわせて、アジアの建築史を理解することで、地域を超えた建築、都市の連関について考察できるようになることを目標とする。内容としては、東アジア、東南アジア、南アジア、中央アジア、中東・イスラーム世界という地域区分ごとの建築史、都市史、およびそれらの相互連関などについて講義する。		
環 境 ・ 設 備	建 築 環 境 工 学	建築環境工学	本講義では、建物の室内環境、すなわち空気環境、熱環境、光環境、音環境が人に与える心理的、生理的影響を理解し、人が快適に過ごすことのできる室内環境の構築方法を学ぶとともに、室内環境の解析手法および評価方法を身につけることを目標とする。授業計画の概要は下記のとおりである。(1) 建築環境工学概説、(2) 空気環境 (①換気・通風と空気環境、②室内の汚染物移動の解析、③換気と省エネルギー)、(3) 熱環境 (①人の温冷感と評価手法、②熱移動の解析、③室内の気候計画)、(4) 光環境 (①光と建築、②太陽の位置と日照、③室内外の光環境の評価、④照明計画と色彩計画)、(5) 音環境 (①聴覚と音響、②室内外の音環境の評価、③ホール等の音響計画)。		
		建築設備	本講義では、空調、給排水、電気、防災といった建築設備のシステムを理解し、その計画手法の基礎を学ぶ。さらに、環境問題や情報技術等、今日の建築設備と深く関連する課題や技術を理解し、幅広い知識を身につけることを目標とする。授業計画の概要は下記のとおりである。(1) 建築設備概説、(2) 空気調和設備と室内環境、(3) 給排水衛生設備、(4) 消防設備、(5) 電気設備、(6) 防災設備と安全計画、(7) 情報設備、(8) 省エネルギー技術と建築設備、(9) 建築設備の情報化、(10) 設備計画と建築計画、(11) 住宅の設備計画、(12) 設備に関連する法規、施工技術。		
構 造	建 築 構 造 力 学 I	本講義の目的は、静定構造物を対象に、作用する荷重と部材に生じる応力の釣合いを理解し、支持反力や部材応力を算定する方法を修得することである。講義内容は、まず構造物の力の釣合いから、支持反力を求める方法を修得する。次にトラス構造、単純梁、片持ち梁、ラーメン構造の特徴を理解し、部材に生じる軸力、せん断力、曲げモーメントの算定方法を理解する。最後に柱や梁の性能を表す断面の諸定数の意味を理解し、様々な断面形状に対し算定し、それらを用いて梁部材の変形を求める方法を修得するものである。			

授 業 科 目 の 概 要				
(建築学部 建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	建築・都市デザイン専門科目	構造	<p>建築構造力学Ⅱ</p> <p>本講義の目的は、不静定構造物を対象に、構造物の変形や応力を求める方法を修得することである。講義内容は、まず応力法の1つである仮想仕事法を用いてトラス構造や梁部材の変形や不静定力を求める方法を修得し、次にひずみエネルギーに基づくカスティリアノ法を理解しトラス構造や梁部材、フレーム構造の変形や不静定力を求める方法を修得する。最後に変位法について、主にたわみ角法の計算手順を中心に理解し、ラーメン構造の応力や変形を求める方法を修得するものである。</p>	
		<p>建築構造デザイン</p> <p>構造デザインには建築デザインの創造力を広げる可能性を持っていることを、建築作品の事例を示し、構造デザインという切り口で体系的に整理しながら解説する。また、構造システムが特徴的な建築作品を調査し、構造模型を制作する実習を行う。講義・実習を通して、建築作品の構造システムの概念を記述できるようにすること、建築構造の形と力の流れの関係を定性的に理解することを目標とする。前半は建築作品とその構造システムについての講義、後半は構造模型制作実習を行う。実習では、スチレンペーパー等の柔らかい材料を用いて模型を制作し、手で押しながら模型の挙動を確認することで、力の流れについての理解を深める。</p>	講義15時間 実習30時間	
専攻教育科目	建築・生産	<p>建築一般構造Ⅰ</p> <p>建築の主体構造について、その構法上の構成や仕組みを理解し、主体構造の基礎知識を身につけることを目標とする。内容は、建物の代表的な主体構造である木造（木材の特徴、在来軸組構法、ツーバイフォー構法、小屋組・床組・部材の接合法、工業化住宅）、鉄骨造（鋼材の特徴、接合法、壁・床の構法、軽量鉄骨構法）、鉄筋コンクリート造（材料の特徴、配筋、ラーメン造・壁式構法、スラブと壁構法）、鉄骨鉄筋コンクリート造、組積造（ブロック造、レンガ造、石造）と工業化構法である工場生産住宅、プレキャストコンクリート造、プレストレスコンクリート造である。本講義ではさまざまな建築物の実例を見ながら主体構法についての理解を深める。</p>		
		<p>建築一般構造Ⅱ</p> <p>建築の各部構法として屋根・天井・壁・床・開口部などを取り上げ、その役割と求められる性能の理解を通じて、各部構法の基礎知識を身につけることを目標とする。内容は、屋根の構法（屋根の種類と構成、性能、収まり、防水）、天井の構法（天井の種類と構成、仕上げ、システム天井）、壁の構法（壁の種類と構成、性能、間仕切り、カーテンウォール構法）、床の構法（床の構成、仕上げと下地、取合い）、開口部の構法（開口部の種類と構成、開閉方式、建具金物、サッシ、ガラス）、建材のリサイクルなどである。</p>		
		<p>建築施工</p> <p>この講義では、建築施工が果たす役割、施工方法と技術の理解を通じて、建築施工の基礎的な知識を修得することを目標とする。建築物の施工とはどのようなものか、建設の場で何が行われているかを建築物が完成するまでのプロセスに沿って視覚的にわかりやすく解説する。内容は、建設施工の概要、請負契約・工事計画、仮設工事、地業・土工事、杭工事・基礎工事、躯体工事（型枠・鉄筋工事、コンクリート工事、プレキャストコンクリート工事、鉄骨工事）、外装工事（タイル張り、石張り、ガラス、カーテンウォール等）、防水工事（屋根防水、シーリング）、内装工事（ALCパネル、金属工事、左官・塗装・断熱工事等）、劣化調査・修繕工事、維持管理・解体工事である。</p>		
材料	<p>建築材料学</p> <p>建築物を構成する材料の中でも構造材料に着目し、要求性能、力学的性質、性能試験方法について解説する。また材料選定についての理解を深めるため、各材料が使用されている建築作品について紹介する。本講義では、主要な建築構造材料であるコンクリート、鉄、木その他、ガラス、膜、アルミなど幅広く対象とし、様々な材料を力学的性質という観点から等価に扱う。これにより、材料の力学的性質についての基礎的な知識を修得するとともに、設計での材料選定において柔軟な発想を身に付けることを目標とする。</p>			



授 業 科 目 の 概 要			
(建築学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	材 料	建築材料学実験	建築の設計をする上で、物がどのように壊れるかを知ることは重要である。本講義では、材料試験、及び単純梁構造物の載荷実験を行い、様々なスケールでの物の壊れ方を理解する。材料試験を通して構造設計に必要な材料の力学的性質について理解を深めること、自らの手で模型を作って壊すことを繰り返しながら構造物の剛性・強度を体感すること、アムスラーによる載荷試験によって構造物が壊れる様子を観察し分析することを目的とする。内容は、まず主要な建築構造材料についてJIS規格に基づいた材料試験をする実験を行う。次に模型スケールの単純梁構造の設計についての課題を行う。その中から複数案選定し、スケールを拡大した単純梁構造物を制作し、アムスラーによる載荷試験を行う。
	法 規	建築法規	本講義の目的は、建築実務に携わりたいことを希望する学生が、建築基準法等の条文を自力で読解でき、将来実務に活用できる能力を養成することにある。具体的には、1) 建築法規の体系を理解し、説明できる、2) 建築基準法の基本条文を理解し、設計に反映することができるようになることをめざす。講義では、建築基準法の主要条文を読み解き解説するとともに、講義でとりあげることでできなかった条文、他の法令についても自力で読解できるレベルに到達することをめざす。
	都 市 ・ 地 域	ランドスケープデザイン	この講義では、ランドスケープデザインの歴史および方法を理解することを目指す。海外および日本におけるランドスケープデザインの歴史を多くの事例紹介などを通して学ぶとともに、具体的な設計方法について理解する。主な講義内容は以下のとおりである。1) 海外におけるランドスケープデザインの系譜（特にオルムステッドの実践事例）、2) 日本におけるランドスケープデザインの系譜、3) ランドスケープデザインの手法。
		都市・農村計画	本講義の目的は、都市・農村計画に関する問題と対策の考え方について複合的な観点から理解することである。都市の拡散と都市周辺及び都市内部における課題の実態と動向、都市・地域における社会基盤施設のシステムとしての役割と課題、都市的な要素と農山村的な要素の関係性と表出している課題、都市・地域計画における制度の変遷と現況の課題を概観する。都市・農村計画における制度の理論的枠組み、現況の動向に関連する統計資料、対応事例をもとに講義を進める。
		都市デザイン論	講義の目標は、学生が、街路や広場、公園など、都市の公共空間を構成する諸要素についての基礎的知識を修得するとともに、国や地域毎の固有性と多様性を理解し、都市デザインの基礎的な理論と計画技術を修得することである。具体的な講義内容は以下の通りである。第1に、主に近代以降の都市史に即した都市デザインの系譜について体系的に解説する。第2に、街路や広場など都市の公共空間を構成する諸要素についての基礎的な情報を講義する。第3は、関連する法制度を理解しながら魅力的な公共空間の設計やデザインを行うための基礎的な手法を解説する。

授 業 科 目 の 概 要			
(建築学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 建築・都市デザイン専門科目	都市調査法	<p>(概要)</p> <p>授業形態は学生の発表や報告を交えながらの講義形式である。授業の目標は、都市空間及び都市活動に関する調査と分析の方法を理解し、自ら実施できるための調査技術を身につけることである。具体的には、歴史史料の読解と活用法、縮尺や目的の異なる多様な地図資料の活用法、統計資料の活用法、映像資料の活用法、実測やデザインサーベイの方法、アンケート調査、ワークショップ、観察調査などについて、学生に実際の資料を活用させながら講義を実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(2 角野 幸博/3回) (総論及びデザインサーベイ他)</p> <p>1) 都市の計画提案のための基礎的データ収集及び調査手法の全体像、2) 歴史史料、市町村史、自治体等総合計画、社史等の読み込み方、3) フィールドワークによる街並み景観や建築物、オープンスペースなどのデザインサーベイ手法、4) 建築物やオープンスペースの実測法等を講義。</p> <p>(3 清水 陽子/4回) (アンケート、インタビュー、観察調査他)</p> <p>1) 目的に応じた住民アンケート調査手法及び分析手法、2) 住民や来訪者へのインタビュー調査手法及び分析手法、3) 住民などの行動調査や観察調査手法等を講義。</p> <p>(6 松村 茂久/4回) (地図、統計データ、海外の統計データ他)</p> <p>1) 5万分の1程度から1000分の1程度までのスケール及び作成年の異なる地図の収集と読み取りから都市及び特定地区の特徴と変化を知る方法、2) 国勢調査他指定統計調査のデータ収集と分析方法、3) 国内外の各種統計データの収集と分析手法、4) パーソントリップ調査等交通に関するデータの収集と分析手法等を講義。</p> <p>(8 山崎 亮/3回) (ワークショップ、ゲーム、映像他)</p> <p>住民主体のまちづくりのための、多様な意見集約方法やワークショップ手法、ゲーム手法、映像やメディアの活用法などを講義。</p>	オムニバス方式
	コミュニティデザイン	この講義では、コミュニティデザインの歴史や事例を知ることを通じて、参加型デザインの方法を理解することを目標とする。事例紹介やテキスト輪読によって集団による創造性の開発方法について学ぶ。内容は以下のとおり。1) 日本におけるコミュニティデザインの系譜、2) 海外におけるコミュニティデザインの系譜、3) コミュニティデザインの手法。	
	都市解析	この講義では、公表されている社会統計データや都市の諸環境指標さらには自らが目的に応じて計測・収集した諸データを、適切な方法で分析して対象地域の特徴を理解し、的確に表現するための技法を修得することである。例えば、国勢調査などの統計データにアクセスし、分析目的に応じてこれらのデータを再集計、加工する方法を学ぶ。また自らがフィールド調査などによって収集したデータの解析手法なども修得する。	
都市政策	住宅政策論	本授業の目的は、住宅政策・居住環境の変遷と、政策による地域コミュニティや住環境の変化を理解し、今後の在り方について考察できることである。住宅政策は多様化する生活スタイルや空き家など現代の社会課題を扱う分野であり、その変遷には国土政策や福祉政策、環境政策なども関連する。これらの変遷や関連について知識を修得し、これからの住宅政策の展望と、地域コミュニティや住環境の展開を検討する力を養う。	
	都市マネジメント論	本授業は、都市の成長・成熟（衰退）などの変化と過程を理解し、開発から管理へと移行している社会インフラや土地利用と、都市で主体的に活動できる市民、先導的な役割を果たすNPO・NGOの活動などについての知識を修得することを目的とする。さらに、現在の人口減少や社会の変化を受け、都市としての意義・役割を鑑みた制度のあり方や、さまざまな主体の連携など、新たな都市マネジメント手法を考察する能力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要					
(建築学部 建築学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 教 育 科 目	建 築 ・ 都 市 デ ザ イ ン 専 門 科 目	都 市 政 策	都市再生論	講義の目標は、都市再生という課題が生まれた背景とその対象領域、主な都市再生政策および事業の概要を理解することである。講義内容は主に以下のとおりである。(1) 都市の成長、成熟、衰退、再生のプロセスを、人口増減、土地利用変化、経済活動などの視点から解説。(2) 都市規模や市街地タイプ別に都市再生事業の実施状況と課題を実例を提示して解説。(3) 都市再生に係る法令や計画制度、空間デザイン、運営体制などについて事例を使って解説。	
			都市防災論	本講義では、都市・地域における防災・減災・まちづくり等の課題について、表面的な部分だけでなく現実にある問題の構造を深く考えられる基礎的な素養を身につけるとともに、問題の解決方法を吟味するための分析能力を獲得することを目標とする。都市・地域における防災・減災に関連する具体的なテーマを取りあげ、対象とするテーマの問題を構造化し、課題を解決するための方策を検討する。それらに必要な知識・技術を修得する。	
			地域再生論	この講義では、人口減少や産業構造の転換などによって衰退が進んだ地方都市や農山漁村集落の再生に向けた取り組みを取り上げ、それらの衰退の原因および再生の手法、プロセスを理解することを目標とする。国内および海外の先進的な地域再生事例を紹介するとともに、学生同士あるいは学生と関係者などとの対話によって地域再生とはなにかを深く考える。内容としては以下のとおり。1) 国内の地域再生事例、2) 海外の地域再生事例、3) 地域再生の意義と方法。	
			交通政策論	講義を通じて、都市問題の解決やまちづくりのために活用されている日本及び世界の交通政策を学習することを目標とする。講義では、都市開発やまちづくりのために活用されている日本及び世界の交通政策の実例を通じ、具体的な施策や計画手法のメニュー、並びにそれらが建築・都市空間の形成にどのように影響を及ぼしているかを学習する。また、交通と一体となったまちづくりの典型的なコンセプトであるTOD（公共交通指向型都市開発）や、自動運転やシェアモビリティなどの新しい技術が都市空間の形成に及ぼす影響などについても世界の最新の実例に基づき学習する。	
			海外開発協力論	講義を通じて、開発途上国における様々な都市問題を解決するために日本及び他の先進諸国が実施している都市開発分野に関する国際協力について学習することを目標とする。講義では、開発途上国における多様な都市の現状や課題を明らかにしたうえで、それらの課題を解決するために日本をはじめとする先進国における都市管理や都市計画の経験や技術がどのように活用されているかを、JICAや世界銀行等の国際機関や先進国政府等が供与する開発援助などの具体的事例、並びに日本国政府が進める国際協力の実態等に基づき学習する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(建築学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	建 築 ・ 都 市 デ ザ イ ン 専 門 科 目	都 市 文 化	比較都市論
			都市社会学
			都市生態学
			都市人類学
			オムニバス方式
		<p>(概要)</p> <p>都市空間の普遍性と固有性を理解することが講義の目的である。その糸口として、歴史・文化や立地条件が異なる複数の都市について、その全体像及び個別の地区（街路、広場、建築群など）について、どの都市も共通してもつ要素に着目して都市間比較を行う。共時的には、交易、権力、コスモロジーであり、通時的には、人口増減、産業の盛衰、建造物、芸術、社会的記憶などに着目する。諸要素の組合せによる都市タイポロジーについての理解を深めるとともに、固有の魅力形成の可能性についても言及する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(2 角野 幸博/4回)</p> <p>比較都市論の視座、その必要性、都市の普遍性と固有性、歴史の重層性などを概説するとともに、個々の都市や地区における都市計画やまちづくりとの関係を、事例をふまえて講義する。</p> <p>全体総括として、計画提案への橋渡しの方法及び比較都市研究の可能性について理解を深めさせる。</p> <p>(3 清水 陽子/5回)</p> <p>個別の地区レベルでの国内及び海外の事例を比較紹介するとともに、学生に都市比較の課題を課し、学生の発表をふまえながら類似都市の事例をさらに紹介し、理解を深めさせる。</p> <p>(4 照本 清峰/5回)</p> <p>個別事例の比較紹介を行う。学生に都市比較の課題を課し、学生の発表をふまえながら類似都市の事例をさらに紹介し、理解を深めさせる。</p>	
		講義の目標は、「都市的なるもの」の共通性を理解する一方で、都市の定義の多様性を知り、都市を巡る多様な議論について理解を深めることによって、空間デザインに偏らない都市計画のあり方を知ることである。講義では、「都市の定義」や「都市を語る側面」をめぐってどのような議論が展開されてきたかを、鈴木栄太郎、ウェーバー、シカゴ学派、ワース、ジェイコブスなどにも触れながら解説する。また欧米の都市論では説明しきれない日本やアジア都市の特性や、ソサエティ5.0の到来が都市の形態と営みに与える影響などについても解説する。	
		本講義の目標は、都市を単なる行政的な単位ではなく、生物（人も含む）、大気、水、土壌などで構成される一つの系（都市生態系）として理解し、都市環境における生物同士の関係およびその周辺環境についての科学的知識を深めることである。都市生態系には、人間中心主義的なとらえ方と生態系中心主義的なとらえ方がある。前者は、都市社会を支えるインフラのひとつとしての緑と水のネットワークを位置付ける。後者は、社会経済活動を含めた人間の営為を自然生態系と同化させようとする方向に向かう。本講義ではこの二つの視点を理解したうえで、物理的に緑を増やすということにとどまらず、自然生態系本来の連鎖が蘇り、多様な生物が都市住民と共生できる都市環境づくりのあり方について解説する。	
		講義の目標は、世界的に進行する都市化の背景と特徴を知り、さまざまな文化的背景をもつ都市住民の日常生活および社会の仕組みを理解することで、地球規模で進行する都市化社会の未来を展望し再考する能力を得ることである。講義では、たとえば「遊動から定住へ」「中心と周縁」「都市空間の象徴性」「都市の祝祭性」「第三世界の都市化」「郊外の誕生」「地方出身者と多民族社会」などのテーマを設定し、世界各地の都市住民の生活実態に注目し、観察された「様々な行動の態様」から「行動の型」や「文化類型」を解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(建築学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	建築・都市デザイン基礎演習	デジタル表現演習 I	この演習では、基本的なアプリケーションの使い方を学習し、建築情報の2Dによるデジタル表現方法を身につけることを目標とする。内容は、デジタル表現の概要、ワープロ（Wordの作成・編集方法、スタイル）・表計算（Excelの作成・編集方法、関数、グラフ作成）・データベースツールなどの使い方、CADツールの概要（画面構成・初期設定・基本操作）、オブジェクトの作成・編集、レイヤの設定、テキストと寸法の入力、設計図面（平面図・断面図・立面図）の作成方法、自由設計によるデジタル表現である。
		デジタル表現演習 II	この演習では、「デジタル表現演習 I」に続き、CAD/CG技法を用いて、より高度なデジタル表現方法を身につけることを目標とする。内容は、CAD/CGの概要（ツールの種類と機能、特徴）、CADツールの3Dモデリング（ユーザーインターフェース、3Dオブジェクトの作成と編集）、PhotoShopの活用（画像補正・編集・合成）、SketchUpの活用（基本操作、描画と編集、グループ化・マテリアル、建築・外観図の作成）、設計課題の3Dデジタル表現である。
		BIM演習	建築BIMに関する概論を理解し、BIMツールの操作方法の学習と演習を通じて、建築設計、施工、設備、環境、構造など各専門分野への応用力を身につけることを目標とする。内容は、建築BIM概論、BIMツールの基本操作とインターフェース、モデリング・パース・図面作成、コラボレーション、シミュレーション（日影、温熱環境）、プレゼンテーション、マテリアル設定、自由設計課題によるBIMの活用である。
		建築・都市演習	担当教員が都市や建築に関して、実際の地域や建築物（群）を素材としてテーマを自由に設定し、フィールドワークやプロジェクト・ベースド・ラーニング（PBL）を踏まえた、比較的少人数を想定した演習科目。演習の目標は、1) 現実の都市や建築に直接関わることによってそれぞれの特徴や課題を自らが発見すること、2) 実測やデザインサーベイの技術を修得すること、3) テーマに関連する資料や文献を収集し編集すること、4) 現実の生活空間における都市や建築を計画する際の、他者とのコミュニケーションやプレゼンテーションの重要性に気付くこと等である。
		建築プログラミング演習	建築設計の各分野において、コンピュータを利用した設計が欠かせないものとなっている。本演習では、プログラミング言語の基本的な概念を学び、簡単なプログラムの実装を行うことで、建築の設計及び解析に必要なプログラミングの基礎知識を修得する。これにより、3DモデリングソフトRhincerosとそのプラグインGrasshopperを用いたコンピューテーショナルデザインや、表計算ソフトExcelのVBAや数値解析ソフトMATLABを用いた構造解析、流体解析であるCFD解析等、各専門分野での設計や研究に応用できるようになることを目指す。プログラミング言語の基礎について講義形式による授業の他、演習課題によりプログラミングの習熟を図る。
		測量実習	測量は、家作り、街作りの様々な分野で使われており、建築では設計、施工、維持管理の各段階で必要となる。この授業では、実習を通して測量を基礎から体系的に学び、また都市計画・防災等の分野に使われているGIS（地理情報システム）データ作成を修得することを目的とする。授業内容は、平板測量を使った道線法・骨格測量実習、平板測量による地形測量と地形図の完成、昇降式水準測量実習、器高式水準測量、トラバース測量、トータルステーションを使った角度・距離測定と座標計算、エクセルを使った座標計算、地積測量図作成、面積計算、ドローンを使った計測、写真測量などである。

授 業 科 目 の 概 要			
(建築学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	建築・都市デザイン専門科目	GIS演習	演習の目的は、GIS（地理情報システム）について、学生がその概念を理解するとともに、基本的な操作手法を修得することである。具体的には次の3点を目標とする。1) GISの概念について説明することができる。2) 都市計画に関連する統計データ、自然環境統計データにアクセスできる。3) 都市に関する各種の空間データをGISを用いて処理、表示、解析することができる。近年社会の耳目を集めているGISについて、課題を通して実践的に学び、地理的なデータマイニングの手法を修得することで、社会に出る際の一つの強みとすることができる。
	建築・都市デザイン応用演習	建築デザイン演習	本演習では、フィールドコンテクストの読み取り、ターゲットの特性研究、デザイン展開等のそれぞれのプロセスを学び、建築設計スキルの能力開発およびデザインコンペに向けた手法を理解することを目的とする。学生達が身に付ける能力として、1) 都市空間構成を読み込むことができる、2) 建築空間構成を読み込むことができる、3) ターゲットに合わせたデザインができる、4) デザインに対する説明責任を果たすことができる実践的な演習を試みる。さらにこの演習からの成果は積極的に社会に向け発表を行う。
		建築設計手法演習	本演習では、建築設計とは、人々の希望を反映した新しい空間ビジョンを物理的に構成することである。またそれは私的なものと公共的なものを建築空間によってとりまとめていくことでもあろう。さらには、その空間ビジョンは都市のあり方と人々の生活を考えることへと展開していく。私から出発しながらも、皆の幸福を実現するメディアとして、建築設計の実践的な演習を試みる。
		アーバンスケープデザイン演習	本演習の目的は、アーバンスケープ＝都市の様相を自ら感じ取り、そこにはどのような意図をもって自らの建築を設計するかを考え実践していくことである。演習内容は、具体的な場所と建築プログラムが課題として与えられ、学生たちは敷地の地理的・歴史的・社会的コンテクストを分析し読み解いた上で、その場所にふさわしいと考える新たなアーバンスケープの創出を目的として建築設計を行う。各課題の提出時には講評を行う。
		建築計画演習	本演習では、建築計画の分野において、地域におけるよりよい生活空間の構築を地域生活空間計画と定義し、空間の「型」に着目し、地域特性に対応した建築空間の型や建築と街区空間、都市空間との関係性の型などの考察および提案を行うことを目的とする。演習内容としては、前半で特定の地域を対象とし、文献調査、フィールド調査などのサーベを行い、建築単体、建築相互、建築と街区、建築と都市などのレベルにおいて空間の「型」を分析、考察し、後半ではそれらに基づいた新たな空間計画の提案を行い、図面や模型などにより表現する。
		福祉環境計画演習	本演習では、バリアフリーおよびユニバーサルデザインという概念を理解し、建築空間を構成する上で必要不可欠な技術と技法を修得し、実務における建築設計・計画・制度検討などに応用できる技能を修得することを目的とする。学生達が身に付ける能力として、1. 都市空間にユニバーサルデザインを読み込むことができる。2. 建築空間にバリアフリーデザインを展開することができる。3. 多様な状況に合わせたデザインができる。4. ユニバーサルデザインに対する説明責任を果たすことができる実践的な演習を試みる。

授 業 科 目 の 概 要			
(建築学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	建築・都市デザイン応用演習	建築史・都市史演習	この演習では、目の前にある建物や都市空間を、特に「時間」と「形」・「型」をテーマに読み解き、それを表現する術を修得することを目標とする。複数名のグループごとにテーマを設定し、リサーチの方法や視点を学ぶために書籍の収集と読解を行い、具体的なフィールドでのリサーチを行い、その内容を表現（媒体も考える）する。この授業を通じて、建築・都市の現在の姿を過去、未来を含めた時間軸のなかの一断面として捉え、その構造をつかみ取る力を身につける。
		建築生産演習	建築の導入分野として、1) 建築生産・2) 建築構法・3) 建築施工の基礎知識を修得することを目標とする。内容は、1) 建築生産を取り巻く環境を幅広く取り上げ、建設産業・建設市場、各主体の役割や業務、建築工事の機械化・工業化、建築生産の仕組み、PM/CM/FM、建築生産の国際化についての解説、2) 各主体構法と各部構法の概要とそれぞれの役割と求められる性能についての説明、特に木造構法の接続方法について模型を用いた演習、3) 建築施工が果たす役割について事例を挙げながらの解説、プロセスごとの施工方法の概観である。
		環境設備計画演習	この演習では、測定機器を用いた建物の室内環境の実測、分析等を行うことによって、室内環境の評価手法を学び、室内環境計画の実践に必要な基礎的知識を身につけることを目標とする。授業計画の概要は下記のとおりである。(1) 熱・空気環境について(①室内の温度分布の実測、②人の温熱感の評価、③熱移動、換気量の解析)、(2) 光環境について(①室内の光環境の実測と解析、②人の光、色彩に対する感覚の評価、③開口部の計画と建築デザインの分析)、(3) 音環境について(①室内外の音環境の実測と解析、②人の音に対する感覚の評価、③音響計画の実態の分析)である。
		建築耐震構造演習	本演習の目的は、日本の建築構造を考える上で重要な耐震構造について理解し、基本的な構造検討が出来るようになることである。演習内容は、まず建物に入力する地震動の分析法を理解し、具体的な地震動の特性を検討する。次に建物や地盤の地震応答解析プログラムの利用法を理解し、具体的な建物を対象に地震応答解析を実施してその振動特性を検討し、様々な影響要因を分析する。また、解析と関連して簡単な実験、計測を実施し、それらの内容をレポートにまとめることで、耐震構造検討の基礎を修得するものである。
		建築構造デザイン演習	構造設計者として設計を一通り行い、構造計画案を提示する課題を実施する。目標は、与条件に対して合理的な構造計画を立案すること、構造設計とは同じ与条件に対して答えが1つに定まるのではなく、構造計画次第で解は無数に存在することを理解すること、構造設計の一連の流れを学ぶこと、構造設計者としての論理的なプレゼンテーション能力を身につけることである。課題は、まず提示された設計のイメージや荷重等の諸条件に対し、構造計画を立案する。これに基づき、構造種別の選定・構造計算・図面作成を行い、具体的な建物の形を提示する。最後に案についてレポート作成またはプレゼンテーションを行う。
		都市デザイン演習	グループワークによる演習形式で授業を進める。演習の目標は、学生が指定された都市の特定地区におけるまちづくり課題を発見し、自ら計画提案を行える技術を修得することである。具体的には、キャンパスが立地する三田市またはその近隣市町に対象地区を設定し、4～5名による班を編成してグループワークによって地区特性、歴史的背景、まちづくり課題などを明らかにしたうえで、公共空間の再生や景観整備などのデザイン提案を行う。

授 業 科 目 の 概 要			
(建築学部 建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	建築・都市デザイン応用演習	コミュニティデザイン演習 住民や事業者、関係諸団体、専門家など立場を異にする利害関係者たちが、共通のステージに立って地域課題の発見や解決策の検討さらには行動につなげるための意見交換及び計画づくりのための方法について学ぶ。様々なワークショップの手法を理解するとともに、ワークショップでの対話を通じて、ファシリテーションやアイデア創出に関する能力を身につけることを目標とする。内容は以下の通り。1) ワークショップの手法、2) チームビルディングの手法、3) アイデアの生み出し方とまとめ方。	
	まちづくり演習	この演習では、人の活動の場である「都市・まち」について、その歴史や背景を理解し、現状を把握するための調査・分析方法を修得し、それらについて議論し今後のあり方を検討できる力を涵養することを目的とする。また、これまでに整備されている社会インフラや地域資源などをより有効に活用できる空間づくりや、まちの持続性を保つために付加価値を高めるような地域づくり、それらを担う住民、地域団体などのコミュニティづくりについても知識を修得し、地域で活躍できる人材育成を目指す。	
	都市防災演習	本授業では、災害発生後の進展過程を想像できるようにすること、それらを踏まえた都市の防災・減災対策に関する基本的な考え方や対策を立案する方法を修得することを目標とする。災害事象とその進展過程、都市・地域計画における防災対策の方法、防災まちづくりの枠組みについて、災害事例を題材としながら議論を進める。それらをもとにして、都市災害の基本的な様相を認識するとともに、災害発生後の進展過程と各段階における課題と対策の枠組み、防災・減災体制の今日的課題を把握する。	
卒業 演習・ 卒業 研究	建築学演習	本演習は、4年間の集大成としての卒業設計および卒業論文に向けた具体的なテーマ設定に基づく、調査・分析手法を学び、この学びから、論理的思考力・実践力・応用力を身につけることを目的とする。具体的には学生自らが社会的背景から導かれた問題意識を明確にし、建築・都市にとって新たな知見を見つけ出し提案を行う。最終表現が「卒業設計」の場合は、建築設計案として提案を行う。「卒業論文」の場合は、調査分析結果を論文としてとりまとめる。	
	卒業研究	一つの研究室に所属し、学生個人が設定したテーマに基づき、その問題解決に向けて、フィールド調査や文献調査などから得た結果をとりまとめ発表を行う。これらの一連のプロセスにより、論理的思考力、実践力、応用力を身につけることを目的とする。テーマについて、指導教員と相談しながら立案し、設定された期間内に仕上げるができる能力を養う。最終の研究成果は、卒業設計・卒業論文発表会で発表し、最後に作品か論文としてまとめる。	



学校法人関西学院 設置認可等に関わる組織の移行表

2020(令和2)年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	2021(令和3)年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
関西学院大学				→ 関西学院大学				
神学部	30	-	120	神学部	30	-	120	
文学部				文学部				
文化歴史学科	275	-	1,100	文化歴史学科	275	-	1,100	
総合心理科学科	175	-	700	総合心理科学科	175	-	700	
文学言語学科	320	-	1,280	文学言語学科	320	-	1,280	
社会学部				社会学部				
社会学科	650	-	2,600	社会学科	650	-	2,600	
法学部				法学部				
法律学科	520	-	2,080	法律学科	520	-	2,080	
政治学科	160	-	640	政治学科	160	-	640	
経済学部	680	-	2,720	経済学部	680	-	2,720	
商学部	650	-	2,600	商学部	650	-	2,600	
理工学部								令和3年4月学生募集停止
数理科学科	75	-	300	0	-	0		
物理学科	75	-	300	0	-	0		
先進エネルギーナノ 工学科	80	-	320	0	-	0		
化学科	75	-	300	0	-	0		
環境・応用化学科	80	-	320	0	-	0		
生命科学科	80	-	320	0	-	0		
生命医化学科	80	-	320	0	-	0		
情報科学科	75	-	300	0	-	0		
人間システム工学科	80	-	320	0	-	0		
総合政策学部				総合政策学部				
総合政策学科	245	3年次 20	1,020	総合政策学科	150	-	600	入学定員変更(△95)、 編入学定員変更(△20)
メディア情報学科	120	-	480	メディア情報学科	95	-	380	定員変更(△25)
都市政策学科	100	-	400	都市政策学科	130	-	520	定員変更(30)
国際政策学科	125	3年次 10	520	国際政策学科	120	-	480	入学定員変更(△5)、 編入学定員変更(△10)
人間福祉学部				人間福祉学部				
社会福祉学科	130	-	520	社会福祉学科	110	-	440	定員変更(△20)
社会起業学科	70	-	280	社会起業学科	90	-	360	定員変更(20)
人間科学科	100	-	400	人間科学科	100	-	400	
教育学部				教育学部				
教育学科	350	3年次 5	1,410	教育学科	350	3年次 5	1,410	
国際学部				国際学部				
国際学科	300	-	1,200	国際学科	300	-	1,200	
理学部				理学部				学部の設置(届出)
数理科学科				数理科学科	54	-	216	
物理・宇宙学科				物理・宇宙学科	60	-	240	
化学科				化学科	66	-	264	
工学部				工学部				学部の設置(届出)
物質工学課程				物質工学課程	55	-	220	
重電電子応用工学課程				重電電子応用工学課程	60	-	240	
情報工学課程				情報工学課程	90	-	360	
知能・機械工学課程				知能・機械工学課程	60	-	240	
生命環境学部				生命環境学部				学部の設置(届出)
生物科学科				生物科学科	61	-	244	
生命医科学科				生命医科学科	84	-	336	
環境応用化学科				環境応用化学科	83	-	332	
建築学部				建築学部				学部の設置(届出)
建築学科				建築学科	132	-	528	
計	5,700	3年次 35	22,870	計	5,710	3年次 5	22,850	

2020(令和2)年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	2021(令和3)年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
関西学院大学大学院				→ 関西学院大学大学院				
神学研究科				神学研究科				
神学専攻(M)	10	-	20	神学専攻(M)	10	-	20	
神学専攻(D)	2	-	6	神学専攻(D)	2	-	6	
文学研究科				文学研究科				
文化歴史学専攻(M)	22	-	44	文化歴史学専攻(M)	22	-	44	
文化歴史学専攻(D)	7	-	21	文化歴史学専攻(D)	7	-	21	
総合心理学専攻(M)	20	-	40	総合心理学専攻(M)	20	-	40	
総合心理学専攻(D)	6	-	18	総合心理学専攻(D)	6	-	18	
文学言語学専攻(M)	22	-	44	文学言語学専攻(M)	22	-	44	
文学言語学専攻(D)	7	-	21	文学言語学専攻(D)	7	-	21	
社会学研究科				社会学研究科				
社会学専攻(M)	12	-	24	社会学専攻(M)	12	-	24	
社会学専攻(D)	4	-	12	社会学専攻(D)	4	-	12	
法学研究科				法学研究科				
法学・政治学専攻(M)	45	-	90	法学・政治学専攻(M)	45	-	90	
政治学専攻(D)	2	-	6	政治学専攻(D)	2	-	6	
基礎法学専攻(D)	2	-	6	基礎法学専攻(D)	2	-	6	
民刑事法学専攻(D)	2	-	6	民刑事法学専攻(D)	2	-	6	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻(M)	30	-	60	経済学専攻(M)	30	-	60	
経済学専攻(D)	3	-	9	経済学専攻(D)	3	-	9	
商学研究科				商学研究科				
商学専攻(M)	30	-	60	商学専攻(M)	30	-	60	
商学専攻(D)	5	-	15	商学専攻(D)	5	-	15	
理工学研究科				理工学研究科				
数理科学専攻(M)	10	-	20	数理科学専攻(M)	10	-	20	
数理科学専攻(D)	2	-	6	数理科学専攻(D)	2	-	6	
物理学専攻(M)	22	-	44	物理学専攻(M)	22	-	44	
物理学専攻(D)	3	-	9	物理学専攻(D)	3	-	9	
先進エネルギーナノ 工学専攻(M)	30	-	60	先進エネルギーナノ 工学専攻(M)	30	-	60	
先進エネルギーナノ 工学専攻(D)	2	-	6	先進エネルギーナノ 工学専攻(D)	2	-	6	
化学専攻(M)	33	-	66	化学専攻(M)	33	-	66	
化学専攻(D)	6	-	18	化学専攻(D)	6	-	18	
環境・応用化学専攻(M)	35	-	70	環境・応用化学専攻(M)	35	-	70	
環境・応用化学専攻(D)	2	-	6	環境・応用化学専攻(D)	2	-	6	
生命科学専攻(M)	35	-	70	生命科学専攻(M)	35	-	70	
生命科学専攻(D)	5	-	15	生命科学専攻(D)	5	-	15	
生命医化学専攻(M)	30	-	60	生命医化学専攻(M)	30	-	60	
生命医化学専攻(D)	2	-	6	生命医化学専攻(D)	2	-	6	
情報科学専攻(M)	22	-	44	情報科学専攻(M)	22	-	44	
情報科学専攻(D)	2	-	6	情報科学専攻(D)	2	-	6	
人間システム工学専攻 (M)	25	-	50	人間システム工学専攻 (M)	25	-	50	
人間システム工学専攻 (D)	2	-	6	人間システム工学専攻 (D)	2	-	6	
総合政策研究科				総合政策研究科				
総合政策専攻(M)	50	-	100	総合政策専攻(M)	50	-	100	
総合政策専攻(D)	5	-	15	総合政策専攻(D)	5	-	15	

2020(令和2)年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
言語コミュニケーション 文化研究科			
言語コミュニケーション文化 専攻(M)	30	-	60
言語コミュニケーション文化 専攻(D)	3	-	9
人間福祉研究科			
人間福祉専攻(M)	8	-	16
人間福祉専攻(D)	5	-	15
教育学研究科			
教育学専攻(M)	6	-	12
教育学専攻(D)	3	-	9
国際学研究科			
国際学専攻(M)	6	-	12
国際学専攻(D)	2	-	6
司法研究科			
法務専攻(P)	30	-	90
経営戦略研究科			
先端マネジメント専攻(D)	4	-	12
経営戦略専攻(P)	100	-	200
会計専門職専攻(P)	70	-	140
計	821	-	1,760

2021(令和3)年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
言語コミュニケーション 文化研究科				
言語コミュニケーション文化 専攻(M)	30	-	60	
言語コミュニケーション文化 専攻(D)	3	-	9	
人間福祉研究科				
人間福祉専攻(M)	8	-	16	
人間福祉専攻(D)	5	-	15	
教育学研究科				
教育学専攻(M)	6	-	12	
教育学専攻(D)	3	-	9	
国際学研究科				
国際学専攻(M)	6	-	12	
国際学専攻(D)	2	-	6	
司法研究科				
法務専攻(P)	30	-	90	
経営戦略研究科				
先端マネジメント専攻(D)	4	-	12	
経営戦略専攻(P)	100	-	200	
会計専門職専攻(P)	70	-	140	
計	821	-	1,760	

2020(令和2)年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
聖和短期大学			
保育科	150	-	300
計	150	-	300

2021(令和3)年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
聖和短期大学				
保育科	150	-	300	
計	150	-	300	